千葉県八千代市

公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ

吉橋新山遺跡ａ.ｂ地点

内野南遺跡ｊ地点

天神遺跡ａ地点

２０２２.３（令和３年度）

八 千 代 市 教 育 委 員 会

千葉県八千代市　公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ　吉橋新山遺跡ａ・ｂ地点　内野南遺跡ｊ地点　天神遺跡ａ地点

２０２２

八千代市教育委員会

凡　　例

1　本書は，八千代市教育委員会が平成28年度，平成31年度，令和元年度，令和2年度に市の公共事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査事業の報告書である。本整理及び報告書作成作業は，令和3年度事業として実施した。

2　発掘調査・本調査・本整理作業は以下のとおりである。

吉橋新山遺跡a地点

[調査]確認調査　　期間　平成28年6月14日～6月20日　面積　56㎡/500㎡　担当　森　竜哉

吉橋新山遺跡b地点

[調査]確認調査　　期間　令和元年5月20日～5月23日　面積　70㎡/720㎡　担当　森　竜哉

内野南遺跡j地点

[調査]確認調査　　期間　平成31年4月27日～令和元年6月6日　面積　16㎡/16㎡　担当　宮下　聡史

天神遺跡a地点

[調査]確認調査　　期間　令和元年7月5日～7月29日　面積　168㎡/2,375㎡　担当　森　竜哉

本調査　　期間　令和2年9月23日～令和3年1月26日　面積2,100㎡　担当　森　竜哉

本整理及び報告書作成

[整理]図版作成　　期間　令和3年11月1日～令和4年3月1日　担当　森　竜哉

整理補助員　　柴田清加・田中直子・長谷川恵理子

文化財整理員　岩﨑千代子・宇都洋子・杵島由希

3　本書の編集・執筆は，森がおこなった。

4　現場の遺構写真は各担当者が，報告書掲載の遺物写真は森が撮影した。

5　本書の作成・刊行については，整理補助員，文化財整理員と森が協力して行い，森が統括した。

6　出土遺物，実測図等の資料は，八千代市教育委員会が保管している。

7　本書の遺構番号は，発掘調査時の番号を使用している。

8　遺構・遺物の縮尺は，下記のとおり統一しているが，位置図・全体図等は別記した。

［遺構］ピット（01P・21～23P・46P・51～53Pは1/60）1/30，竪穴建物跡（01～03D）1/60・同カマド1/30，溝（M）・土塁（DR）・台地整形区画（SK）は別記とした。

［遺物］土器1/3，土製品・石器類・銭貨は一部別記した。

9　遺物実測図の中軸線サイドの空きは，復元実測を示す。

10　遺構遺物のスクリーントーンは，その都度説明を加えた。

11　本書使用の地形図等は下記のとおりである。

調査地点位置図　国土地理院発行　1/50,000佐倉に加筆

第5図　国土地理院発行　1/25,000佐倉に縮小加筆

第7図　八千代市発行　1/1,000急傾斜地対象区地形測量図に加筆

その他地形図　八千代市発行　1/2,500ないし1/10,000八千代都市計画基本図

12　発掘調査から整理作業において下記の諸氏・機関にご指導，ご協力いただきました。記して感謝いたします。（敬称略）遠山成一　道上文　千葉県教育庁文化財課

本　文　目　次

凡例
目次　挿図目次　図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　各調査の概要 …… 2
1. 吉橋新山遺跡ａ地点 …… 2
吉橋新山遺跡ｂ地点 …… 3
ａ地点・ｂ地点調査のまとめ …… 4
2. 内野南遺跡ｊ地点 …… 6
3. 天神遺跡ａ地点 …… 7
天神遺跡周辺の遺跡について …… 8
調査経過 …… 9
検出された遺構・遺物 …… 13
第１節　遺構外出土遺物 …… 13
第２節　縄文時代の遺構　遺物 …… 16
第３節　奈良平安時代の遺構・遺物 …… 26
第４節　中世の遺構・遺物 …… 31
第５節　近世の遺構・遺物 …… 45
第６節　まとめ …… 51
参考文献 …… 52
報告書抄録 …… 53

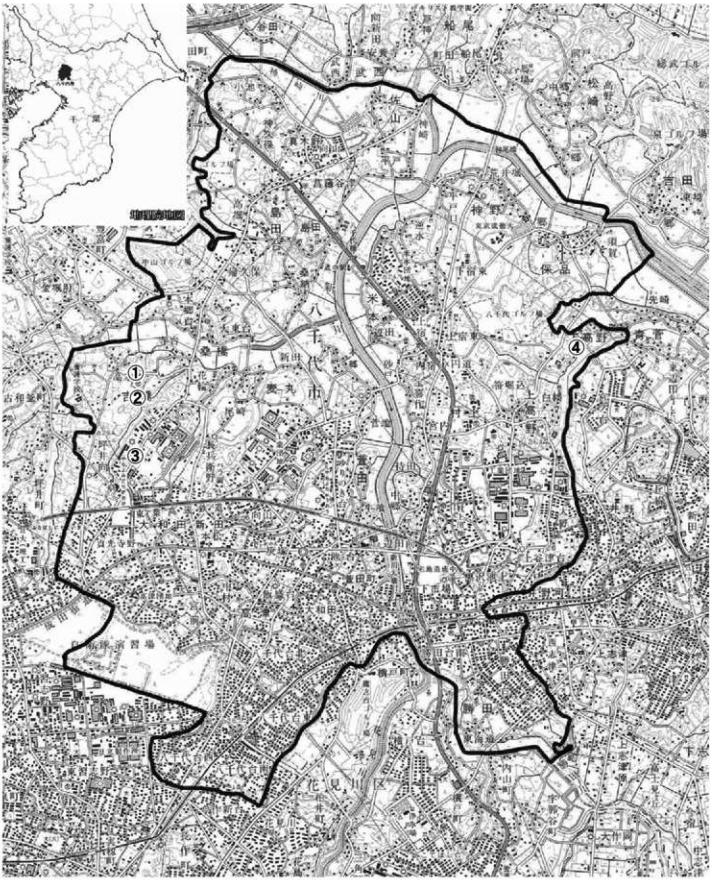
挿　図　目　次

第１図　調査地点 …… 2
第２図　吉橋新山遺跡ａ. ｂ地点トレンチ配置・基本層序 …… 3
第３図　吉橋新山遺跡周辺の遺跡 …… 5
第４図　内野南遺跡ｊ地点調査地点 …… 6
第５図　天神遺跡周辺の遺跡 …… 7
第６図　天神遺跡ａ地点調査地点 …… 9
第７図　確認調査トレンチ配置図 …… 10
第８図　遺構配置図 …… 11
第９図　遺構配置拡大図 …… 12
第10図　遺構外出土遺物（1） …… 13
第11図　遺構外出土遺物（2） …… 14
第12図　遺構外出土遺物（3） …… 15
第13図　遺構外出土遺物（4） …… 16
第14図　06. 07. 09. 10. 11. 13P 遺構実測図・出土遺物 …… 17
第15図　14P. 15P 遺構実測図・出土遺物 …… 18
第16図　16P. 17P 遺構実測図・出土遺物 …… 19
第17図　18P ～ 20P 遺構実測図・出土遺物 …… 20

第 18 図　24P. 26P 遺構実測図・出土遺物 ……21
第 19 図　25P. 28P 遺構実測図・出土遺物 ……22
第 20 図　27P 遺構実測図・出土遺物 ……23
第 21 図　29P 遺構実測図・出土遺物 ……24
第 22 図　31P. 32P 遺構実測図・出土遺物 ……25
第 23 図　33P 遺構実測図・出土遺物 ……26
第 24 図　01D 遺構実測図・出土遺物（1） ……27
第 25 図　01D 出土遺物（2） ……28
第 26 図　02D. 03D 遺構実測図 ……29
第 27 図　03D 出土遺物 ……30
第 28 図　01SK 遺構実測図 ……31
第 29 図　01P 遺構実測図 ……32
第 30 図　01P 出土遺物 ……33
第 31 図　21P. 22P. 23P 遺構実測図 ……34
第 32 図　21P 出土遺物 ……34
第 33 図　22P 出土遺物 ……35
第 34 図　44P ～ 46P 遺構実測図・出土遺物 ……36
第 35 図　47P ～ 50P 遺構実測図 ……37
第 36 図　51P ～ 53P 遺構実測図 ……38
第 37 図　51P. 53P 出土遺物 ……39
第 38 図　01M 遺構実測図・出土遺物 ……40
第 39 図　03M 遺構実測図・出土遺物 ……41
第 40 図　04M. 05M. 01DR 遺構実測図 ……42
第 41 図　04M. 05M 遺構実測図・出土遺物 ……43
第 42 図　06M 遺構実測図・出土遺物 ……44
第 43 図　02P ～ 04P 遺構実測図 ……46
第 44 図　05P. 12P 遺構実測図 ……47
第 45 図　12P 出土遺物 ……48
第 46 図　34P ～ 36P 遺構実測図・出土遺物 ……48
第 47 図　37P. 38P 遺構実測図 ……49
第 48 図　39P ～ 43P 遺構実測図 ……50
第 49 図　03D-15 遺物実測図 ……50

図　版　目　次

図版 1　各遺跡トレンチ完掘状況
図版 2　天神遺跡 a 地点遺構①
図版 3　天神遺跡 a 地点遺構②
図版 4　天神遺跡出土遺物①
図版 5　天神遺跡出土遺物②
図版 6　天神遺跡出土遺物③
図版 7　天神遺跡出土遺物④



調査地点位置図　[S = 1：50,000]

① 吉橋新山遺跡 a 地点　② 吉橋新山遺跡 b 地点　③ 内野南遺跡 j 地点　④ 天神遺跡 a 地点

Ⅰ　調査に至る経緯

八千代市は，首都圏のベッドタウンとして開発が進み，平成８年４月の東葉高速鉄道の開業以来，さらにその傾向を強め，沿線を中心とした新しいまちづくりが進められている。こうした状況の中，八千代市は「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市　八千代」を実現するために，第５次総合計画を策定し，「人がつながり　未来につなぐ　緑豊かな　笑顔あふれるまち　やちよ」を目指して，諸事業を実施しているところである。それら市の事業で土木工事を伴う場合について，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）では，毎年予算策定時期に市役所各課の次年度の公共事業計画を照会することによって把握し，その内容を吟味し，調査案件については予算措置をしている。

発掘調査に至る事前手続きは，千葉県教育委員会の指導のもと「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（以下「協議依頼」という。）の提出を求め，「公共事業関連埋蔵文化財調査事業」として発掘調査を実施している。

以下は，本書に掲載した各調査に至る経緯である。

吉橋新山遺跡ａ地点

平成 28 年３月，八千代市長（都市整備課）（以下事業者という）から，道路拡幅工事を予定する旨で「協議依頼」が市教育委員会に提出された。協議地は，市遺跡№ 130 吉橋新山遺跡の範囲内であり，過去に周辺の調査で遺構・遺物が確認されていることから，文化財保護法第 94 条の通知が必要な旨回答した。平成 28 年４月に通知を受け，協議の結果，確認調査を実施することとなり，同年６月 14 日に確認調査に着手した。

吉橋新山遺跡ｂ地点

ａ地点に引き続き平成 31 年４月，八千代市長（都市整備課）（以下事業者という）から，道路拡幅工事を予定する旨で「協議依頼」が市教育委員会に提出された。協議地は，ａ地点同様市遺跡№ 130 吉橋新山遺跡の範囲内であり，畑地において，稀少ではあるが遺物が確認されていることから，文化財保護法第 94 条の通知が必要な旨回答した。同年４月に通知を受け，協議の結果，確認調査を実施することとなり，同年５月 20 日に確認調査を開始した。

内野南遺跡ｊ地点

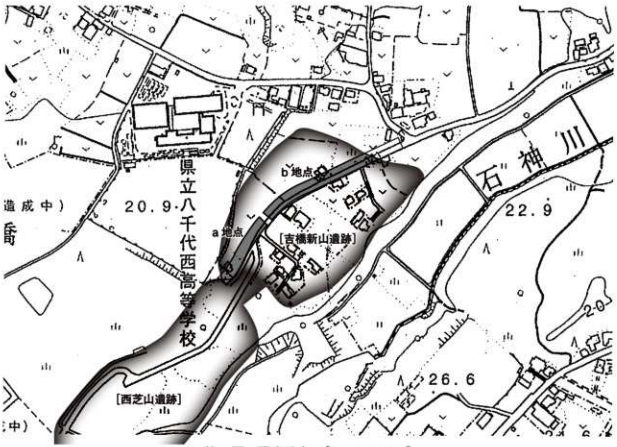
平成 30 年５月，八千代市事業管理者（下水道課）（以下事業者という）から，公共下水道工事を予定する旨で「協議依頼」が市教育委員会に提出された。協議地は，市遺跡№ 289 内野南遺跡の範囲内であることから，文化財保護法第 94 条の通知が必要な旨回答した。同年５月に通知を受け，協議の結果，確認調査を実施することとなった。次年度の平成 31 年４月から工事の進捗に合わせ確認調査に着手した。

天神遺跡ａ地点

平成 30 年６月，八千代市長（土木建設課）（以下事業者という）から，急傾斜地崩壊対策事業を予定する旨で「協議依頼」が市教育委員会に提出された。協議地は，市遺跡№ 89 天神遺跡の範囲内であり，協議地において土器が確認され，周辺に板碑・五輪塔等が遺存し縄文時代石器が散布していることから，文化財保護法第 94 条の通知が必要な旨回答した。平成 30 年８月に通知を受け，協議の結果，確認調査を実施すること，工事は多年度計画であるが，着手前に発掘調査完了が条件として提示されたことから，調査対象範囲全域での確認調査に令和元年７月５日に開始した。その結果，遺構・遺物が確認された。その後の協議において，予定通り工事を進める計画とのことであり，次年度予算措置の確定を待って，諸準備の整った令和２年９月 23 日に本調査に着手した。

Ⅱ　各調査の概要

1. 吉橋新山遺跡 a. b 地点



第１図　調査地点　[S=1：5,000]

吉橋新山遺跡 a 地点

遺跡の立地と概要

本遺跡は市域中央西側の高本地区で，桑納川南岸に至る石神谷津の西側台地上平坦部に位置し，標高は 22 ～ 25m である。本遺跡は縄文時代前～後期，奈良平安時代の包蔵地として登録されているが，今回の調査が初めてとなる。南隣接地の西芝山遺跡においては，（公財）千葉県教育振興財団が，西八千代北部土地区画整理事業に先行した発掘調査において，縄文時代早～後期の土器類，平安時代竪穴建物跡等が検出され，該期の遺構・遺物が想定された。

調査の方法と経過

調査は道路拡幅部分の調査範囲500㎡について，その形状に沿って2×4mのトレンチを7カ所設定し，掘り下げて遺構確認を行った。

調査期間は平成 28 年 6 月 14 日～ 6 月 20 日で，6 月 14 日 1 ～ 3. 5 トレンチの重機によるトレンチ掘削，15 日 4. 6. 7 トレンチの重機によるトレンチ掘削，並行して 17 日にかけて人力によるトレンチ内清掃・セクション実測を行う。20 日埋め戻し・機材撤収を行い調査を完了した。

調査の概要

4 トレンチを除いて深さ 50 ～ 60cmでソフトロームに至った。部分的に，Ⅱ c 層（暗褐色土）の自然堆積層が遺存していた。結果として，遺構・遺物は確認されなかった。

吉橋新山遺跡ｂ地点

立地と調査方法

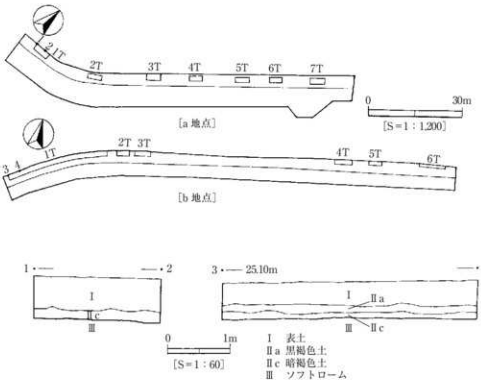
本地点はａ地点の北側に隣接する。調査は，ａ地点においては道路部分にカッターを入れて行ったが，今回は畑地側での拡幅範囲において任意にトレンチを６カ所設定し，掘り下げて遺構確認を行った。道路拡幅部分の調査範囲720㎡の内，70㎡について実施した。

調査経過

調査期間は令和元年５月20日～５月23日で，５月20日トレンチ設定，22日重機によるトレンチ掘削及び人力によるトレンチ内清掃後落ち込みの遺構確定作業，23日重機によるトレンチ掘削及び人力によるトレンチ内清掃後落ち込みの遺構確定作業を行った。各作業日毎に埋め戻し作業を併せて行い，機材撤収を含め調査を完了した。

調査の概要

遺構確認面は，1.2.3トレンチではソフトローム上面で，おおむね60～80㎝，4.5.6トレンチでは，改変を受けており，ソフトローム下層～ハードローム中で，70～100㎝であった。結果として，遺構・遺物は確認されなかった。



第２図　吉橋新山遺跡ａ.ｂ地点トレンチ配置・基本層序

a 地点・b 地点調査のまとめ

本遺跡2地点においては，線的な調査ということもあり，遺構・遺物は検出されなかった。前述したが，西八千代北部土地区画整理事業に先行した発掘調査においては，旧石器時代の遺構・遺物，縄文時代の遺構・遺物，平安時代の遺構・遺物，中近世の遺構が検出された。本遺跡を含むこの調査地点は，西側を坪井川，東側を石神谷津に挟まれた南北方向に長い台地（高本支台）上に位置する。同一台地上での面的な発掘調査によって，各時代の土地利用がある程度想定可能である。（第3図参照）

南隣接地の**西芝山遺跡**（対象面積24,309㎡）では，旧石器時代の石器集中地点10カ所（立川ローム層下部6・上部4），縄文時代の陥穴1基・早期～後期土器片石器少量，平安時代の竪穴建物跡1棟（10世紀前半）・土坑3基，中近世の土坑1基・野馬堀1条・火葬施設1基等が検出された。

西芝山南遺跡（対象面積21,653㎡）では，旧石器時代の石器集中地点34カ所（立川ローム層下部30・上部4），縄文時代の土坑1基・中期土器片・石鏃が検出された。

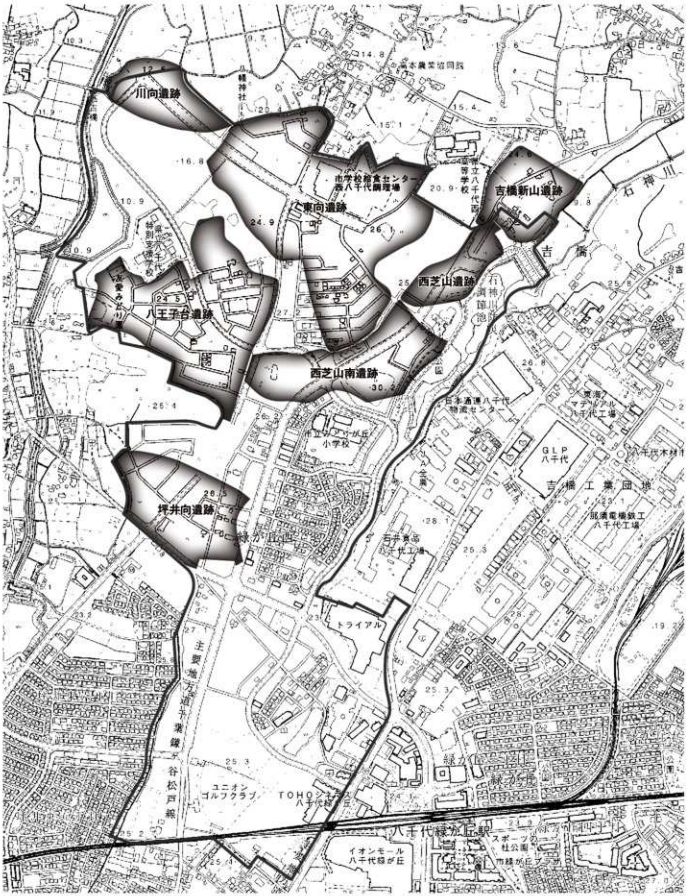
本遺跡西側の台地中央部に位置する**東向遺跡**（対象面積153,978㎡）では，旧石器時代～縄文土器出現期の石器集中地点20カ所（立川ローム層下部5・上部11・上面4），縄文時代の陥穴6基・土坑9基・早期～後期土器片・石鏃・石斧・凹石等少量，平安時代の竪穴建物跡2棟（10世紀後半～11世紀前半），近世の塚1・野馬土手堀8条・シシ穴1基等が検出された。

東向遺跡西側で，支台北西部の**川向遺跡**（対象面積28,662㎡）では，旧石器時代の石器集中地点3カ所（立川ローム層下部2・上部1），縄文時代の陥穴2基・石鏃1点等が検出された。

東向遺跡南側で，支台西部の**八王子台遺跡**（対象面積106,237㎡）では，旧石器時代～土器出現期の石器集中地点31カ所（立川ローム層下部11・上部16・上面3）），縄文時代の陥穴6基・土坑11基・中期後半の竪穴住居跡17軒・中期土器片・土器片錘・石鏃・磨石・石皿・石斧，古墳時代の円墳周溝（6世紀末葉～7世紀前半）1基，平安時代の竪穴建物跡等8棟（10世紀前半～後半），近世の野馬土手1条・道路状遺構2条等が検出された。また八千代市教委が，平成13年（2001）に障害者施設建設に先行して実施した本調査において，縄文時代のピット8基・風倒木痕1ヵ所が検出された。風倒木痕は出土遺物の検討から，中期後半の住居跡の可能性が高いと判断されている。県教育振興財団調査の縄文時代住居跡群の西側遺構群に含まれると想定される。

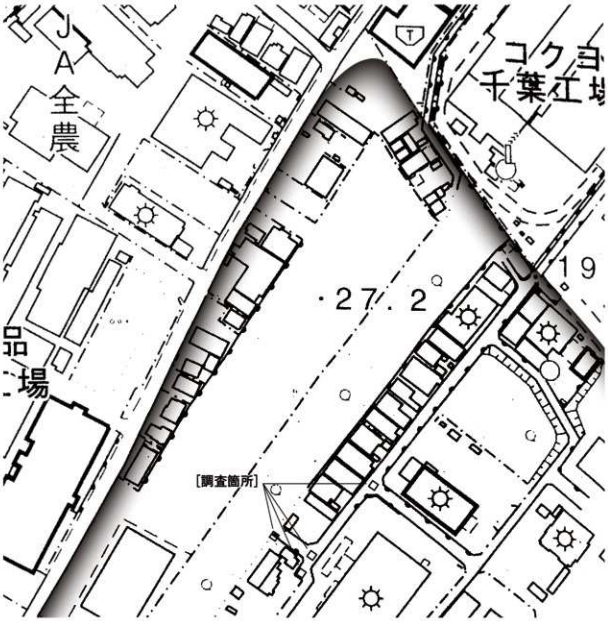
八王子台遺跡南側で，支台南部の**坪井向遺跡**（対象面積51,712㎡）では，旧石器時代の石器集中地点2カ所（立川ローム層下部2），縄文時代の陥穴3基・中期後半土器片石鏃1点，平安時代の竪穴建物跡1棟（10世紀前半～中葉），近世の野馬土手1条が検出された。

概観すると，旧石器時代では，立川ローム層中下部・同上部の石器集中地点とともに，縄文土器出現期に該当する槍先形石器・小型の掻器等が立川ローム層上面から出土している。縄文時代では，時期不詳の陥穴・土坑が各遺跡から検出された。また竪穴住居跡は，八王子台遺跡で17軒が発見されたのみで，時期は中期後半に特定される。土器類は，早期～後期の各時期が出土するが，人の足跡のみで積極的な土地利用は見られない。古墳時代では，八王子台遺跡で，後期の円墳周溝1基が検出されたのみである。平安時代の10世紀代には，竪穴建物が点在する。東向遺跡2棟・西芝山遺跡1棟・八王子台遺跡8棟・坪井向遺跡で1棟と貧弱で，集落としての呈をなしていない。近世の17世紀までは目立った土地利用はみられない。近世の遺構では，塚，野馬土手・堀・溝，シシ穴が検出された。野馬土手等は，江戸幕府による御用牧経営の土地利用であり，シシ穴は牧周辺の鹿・猪・野犬の駆除等に活用されていたと想定されている。



第３図　吉橋新山遺跡周辺の遺跡　〔S=1：10,000〕

2. 内野南遺跡 j 地点



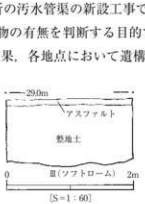
第４図　内野南遺跡 j 地点調査地点　[S＝1：2,500]

調査方法と経過

調査期間は平成31年4月27日～令和元年6月6日で，調査対象地点は4カ所の汚水管渠の新設工事で，各地点2×2mの範囲に限定されるため，各地点の工事に並行して遺構・遺物の有無を判断する目的で行い，4月27日・5月21日・5月31日・6月6日の各々夜間に実施した。結果，各地点において遺構・遺物は確認されず，整地層下1m程度でソフトローム層に至った。

まとめ

本遺跡はこれまでに9地点において調査を実施している。遺跡範囲南側に谷津が入り込み，その台地縁辺に縄文前期中葉～後半の集落跡が展開している。台地平坦部では陥穴等が点在する。今回は遺構密度の薄い地区であったといえよう。



3. 天神遺跡 a 地点

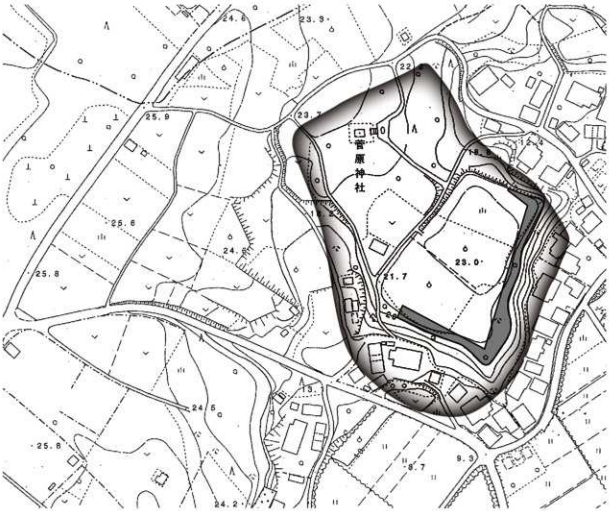
第５図　天神遺跡周辺の遺跡　［S＝1：20,000］

天神遺跡周辺の遺跡について（第5図）

今回調査地の天神遺跡においては，縄文時代早期後半の炉穴群及び中世戦国期の館跡の一部を明らかとしたことが調査成果といえよう。ここでは，該期の周辺の遺跡についてふれていくこととしたい。

縄文時代早期では，**2 下高野新山遺跡**は昭和61年～平成18年に亘る5次の確認及び本調査において，炉穴46基，竪穴住居跡1軒が検出された。何れも条痕文系土器を伴っている。**3 作畑遺跡**では，条痕文系土器の出土，**4 郷遺跡**では平成11年度の調査において，炉穴1基，**5 保品庚塚遺跡**では平成14年度の調査において炉穴4基，**6 上谷遺跡**では炉穴250基，**7 栗谷遺跡**では炉穴40基，**8 向境遺跡**で炉穴11基，**9 の境堀遺跡**で炉穴5基となっている。**6～9**は大学・住宅建設に伴う事業で，台地全体に調査が実施されたものである。この内，上谷遺跡は，谷津に面した台地縁辺を中心に炉穴が群在している。**10 おおびた遺跡**で条痕文系土器が出土，**11 道地遺跡**で，炉穴1基・条痕文系土器が出土している。**12 先崎西谷津遺跡**で条痕文系土器が出土，**13 先崎西原遺跡**では平成9～12年の調査において，早期後半（野島式）の竪穴住居跡1軒・炉穴7基・土坑7基が検出された。**14 馬々台遺跡**では，昭和53年調査において，炉穴約30基・条痕文系土器（野島式，茅山下層式）が検出されている。

中世遺跡・城館跡では，**15 保品竜害城跡**は現地確認のみだが，高さ1.5mの土塁が20m保存され，元々は更に30m台地に沿う形で遺存していた。印旛沼水運の監視所的な城郭として想定されている。**16 米本城跡**はⅠ～Ⅳ郭からなる直線連郭式で，南北300m×東西150mの規模をもつ。Ⅰ．Ⅱ郭は土取りのため消失している。土塁・空堀・井戸・腰廓・虎口等の施設を持つ。これまでにⅢ．Ⅳ郭外側のa．b地点の調査が実施され，b地点では家臣屋敷地としての機能が想定された。**17 米本辺田台遺跡**は米本城に隣接する米本貞福寺の北側に位置する。令和3年の確認調査において，地業による土地の削平と溝・土坑等の確認，16世紀代の土器擂鉢が出土した。なお，寺からは，15世紀中葉～16世紀前半の板碑23枚が出土し，市文化財に指定されている。**18 下宿東遺跡**は，平成15年調査で，土坑1基が検出された。内耳土鍋・かわらけ・擂鉢・土錘・鉄釘など生活用品主体に出土している。土坑廃棄品であるが，周辺に米本城城の集落が想定されている。**19 先崎城跡**は，多郭で空堀・土塁・櫓台・虎口からなる。戦国後期，白井原氏との関連性が想定されている。平成18年の一部調査で，土塁2条・溝状遺構2条・土坑15基・ピット34基が検出されている。遺構に伴う遺物は出土していない。**20 井野城跡**は，有郭で腰廓・空堀・土塁・虎口からなる。戦国前期の所産と想定されている。平成15年の調査において，台地整形区画・地下式坑・竪穴区画・井戸状遺構・道路溝状遺構等が検出され，遺物では貿易陶磁・瀬戸・美濃焼・常滑焼・在地産土器類・瓦質土器等が出土している。結果として，13世紀後半～16世紀中葉の屋敷としての位置づけが想定されている。



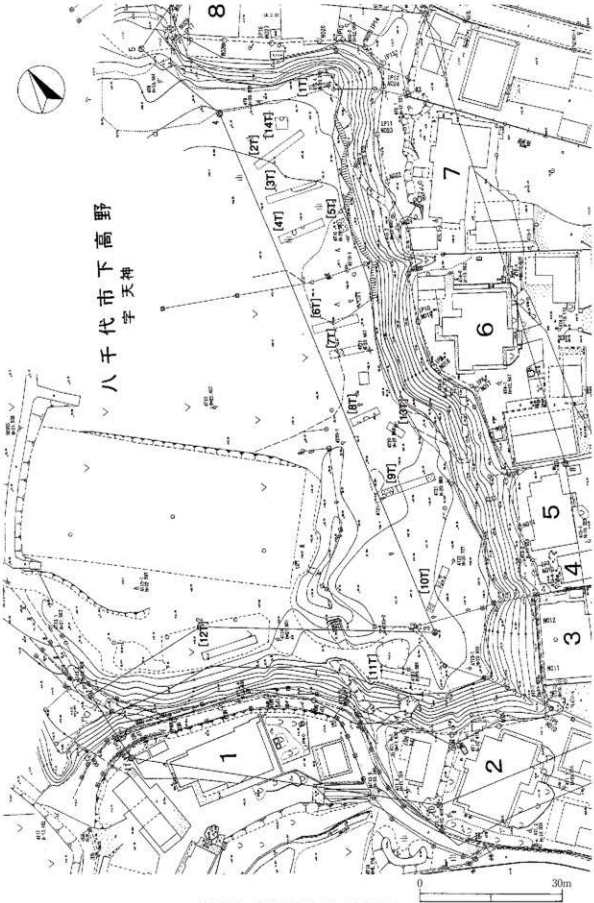
第６図　天神遺跡ａ地点調査地点　［S＝1：2,500］

天神遺跡ａ地点（確認調査）調査経過

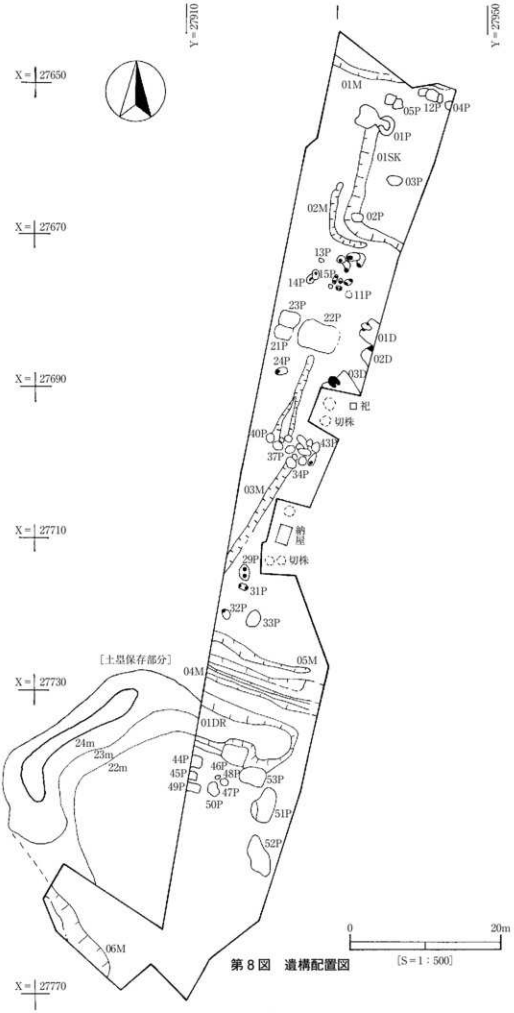
調査期間は令和元年７月５日～７月29日で，７月５日～８日トレンチ設定・トレンチ手掘り，７月９日～10日重機によるトレンチ掘削，９日～11日人力によるトレンチ内清掃，10日～16日トレンチ内落込み遺構確定作業，この間トレンチ完掘状況写真撮影，土層堆積状況実測図作成を行う。19日手掘りトレンチ埋め戻し，トレンチ内遺物回収，現場撤収作業を行う。29日に重機による埋め戻しを行い，全作業を完了した。遺構・遺物が確認されたため，後日本調査を実施した。（次項参照）

天神遺跡ａ地点（本調査）調査経過

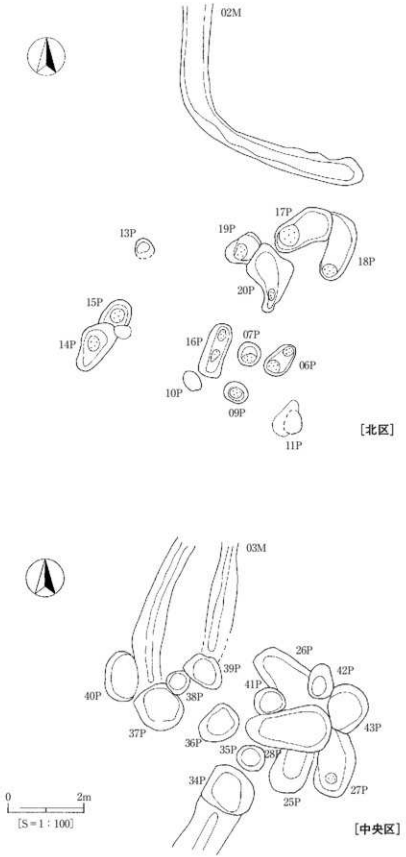
調査期間は令和２年９月23日～令和３年１月26日で，９月28日～10月16日重機による表土剥ぎ，10月22日～28日人員投入し木根処理等調査区整備，10月29日～30日調査区北側から中央部の遺構確認作業，11月４日～12月９日同区01P～43P，01D～03D，01M～03M等遺構調査を行う。12月10日～16日調査区中央部から北側にかけての中世土塁・堀にかかる遺構覆土の重機による掘削作業を行う。12月10日～24日04M～06M，44P～53P等土塁内側の遺構調査を行い，掘削にかかる作業を完了した。12月25日器材撤収。令和３年１月５日～26日にかけて0.3㎥バックホウ・4tキャリアによる埋め戻しを実施し全ての作業を完了した。



第７図　確認調査トレンチ配置図


Y=27910
Y=27950
X=27650
X=27670
X=27690
X=27710
X=27730
X=27770
01M
05P
12P
04P
01P
01SK
03P
02M
02P
13P
14P
15P
11P
23P
22P
21P
01D
02D
24P
03D
祀
切株
40P
43P
37P
34P
03M
納屋
29P
切株
31P
32P
33P
05M
[土塁保存部分]
04M
01DR
24m
23m
22m
44P
45P
49P
46P
48P
47P
50P
53P
51P
52P
06M
0
20m
[S=1:500]

第８図　遺構配置図


02M
17P
13P
19P
18P
20P
15P
14P
16P
07P
06P
10P
09P
11P
[北区]
03M
26P
42P
39P
41P
40P
38P
43P
37P
36P
35P
28P
34P
27P
25P
0
2m
[S＝1：100]
[中央区]

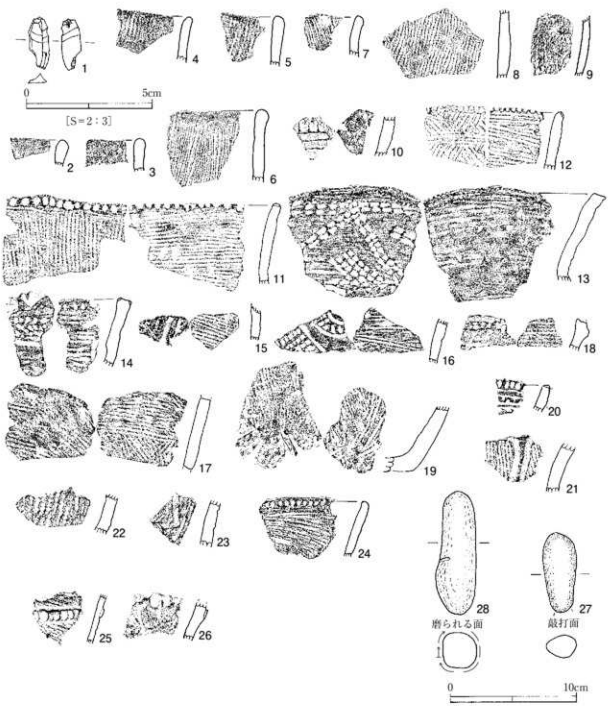
第９図　遺構配置拡大図

検出された遺構・遺物

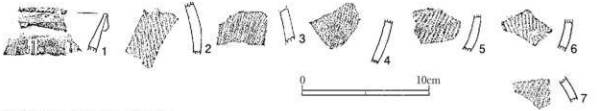
第１節　遺構外出土遺物（第10～13図・図版4）

遺構外出土遺物は，旧石器，縄文，弥生，奈良・平安時代土に亘る。以下，各時代の遺物について述べていく。

旧石器・縄文時代では，1が細石刃で22P覆土より出土した。2～9は早期撚糸文系土器で中央区から北側で出土している。10～19は早期後半条痕文系土器で，炉穴以外からの出土遺物を掲載した。20～26は中後期を一括した。27. 28は叩き石－磨石を掲載した。



第10図　遺構外出土遺物（1）



遺構外遺物観察表（1）旧石器・縄文時代

	種別	器種	部位	計測値（cm）			備考
				器高	口径	底径	
1	旧石器	細石刃	下部欠損	長さ 1.9	幅 0.8	重さ 0.5 g	石材黒曜石。断面三角形。22P
2	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部下から幅のある縦位撚糸文を施文。植裂台式。03D
3	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	コの字状の口縁部で下位は無文。植裂台式。17P
4	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部下から縦位の撚糸文を施文。夏島式。04M
5	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部下から縦位の撚糸文。夏島式。01D
6	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	肥厚した口縁部の下位から目の細かい縦位の撚糸文を施文。夏島式か。32P
7	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部肥厚部分に斜位のキザミ。その下位に縦位の細かい撚糸文を施文。植裂台式か。33P
8	縄文	深鉢	胴部中位	－	－	－	縦位の細かい撚糸文を施文。24P
9	縄文	深鉢	胴部片	－	－	－	縦位の目の細い撚糸文を施文。植裂台式か。24P
10	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	縦位の細隆起線下に縦位の細撚起線を施文。内面は擦痕。野島式か、土器内確認面
11	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	地文のみ施文。コの字状口縁部上に押圧キザミ。外面はやや浅い縦位の条痕。内面は明瞭な横位の条痕。52P2
12	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部外面に竹管によるキザミ。直下に交差状沈線、二重沈線をはさんでまた交差状沈線を施文。内面は明瞭な横位の条痕。1P11
13	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	浅い条痕を地文として横位押引文間に斜位押引文を配置する。内面は浅い横位の条痕を施文。52P1
14	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	コの字状口縁部内外に竹管によるキザミ。外面は横位押引文と綾杓文下に沈線区画を配置する。内面は明瞭な横位の条痕。21P
15	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	外面は竹管による縦位の押引文。内面はやや浅い横位の条痕。23P
16	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	沈線区画内を押引文で施文。内面はやや浅い条痕。土器内確認面
17	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	地文のみ施文。内外浅い横位の条痕。46P
18	縄文	深鉢	胴上半部	－	－	－	外面は竹管によるキザミを持つ段。内面はやや浅い横位の条痕。53P
19	縄文	深鉢	底部	－	－	－	地文のみ施文。内外面やや浅い縦位の条痕。立ち上がりの状況から平底として想定。46P
20	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	口縁部は竹管による押圧キザミ。横位沈線内に円形竹管の交互刺突を施文。03M
21	縄文	深鉢	胴上半部	－	－	－	横位沈線区画内に縄文施文。01P7
22	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	縄文施文。24P
23	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	沈線区画内に刺突文を配置する。後期。22P58
24	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	粘土紐の貼り付けによる紐縁上手にやや右下がりの条痕を施文する。03M1
25	縄文	深鉢	胴上半部	－	－	－	口縁部にキザミ。その直下からやや右下がりの条痕を施す。22P21
26	縄文	深鉢	胴上半部	－	－	－	粘土紐に竹管の押圧を加えている。土器内確認面
27	縄文	磨石・敲石	完形	全長 6.3	幅 2.6	厚さ 1.8	重さ 43.0 g。先端部、両側面に敲打・磨り面有。石材不明。53P
28	縄文	磨石	完形	全長 9.8	幅 3.2	厚さ 2.8	重さ 133.2 g。全周において磨られている。石材不明。06M

遺構外遺物観察表（2）弥生時代

	種別	器種	部位	計測値（cm）			焼成	色調	胎土	調整・文様等
				器高	口径	底径				
1	弥生	甕	口縁部	－	－	－	良好	外 橙褐色 内 暗褐色	長石、雲母細片	短い複合口縁先端に縄文を施文する。複合口縁下に竹管による縦位区画が配される。03D28
2	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	内外 淡茶褐色	石英、雲母、長石	縦位の付加条縄文。03D43
3	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	内外 淡茶褐色	雲母細片、長石	縦位の付加条縄文。03D
4	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	内外 淡茶褐色	雲母細片、長石	縦位の付加条縄文。外面下位にこげ。03D115
5	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	内外 淡茶褐色	雲母細片、長石	縦位の付加条縄文。外面下位にこげ。03D71
6	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	内外 淡橙褐色	雲母細片、長石	縦位の付加条縄文。03D
7	弥生	甕	胴部	－	－	－	良好	外 暗褐色 内 淡茶褐色	雲母細片、長石	縦位の付加条縄文。03D

第 11 図　遺構外出土遺物（2）

弥生時代では，1 ～ 7 が 03D 覆土中より出土した。全て後期土器片で，03D 構築時に壊された際の遺物と思われる。調査区において，弥生時代土器等はこの部分からのみの出土である。

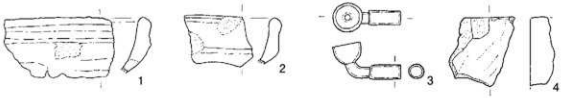
奈良平安時代では，中央やや北側の調査区で 01D ～ 03D の竪穴建物跡 3 棟が検出されているが，近接した 21P，22P 覆土中より瓦塔片が 10 点出土した。小破片のため，個々の実測とした。

確認調査時の遺物については，3 のキセルは中央北側の近世ピット群出土で墓坑としての位置づけが可能と考えられる。

遺構外遺物観察表（3）奈良平安時代・瓦塔

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	瓦塔		屋蓋部	遺存長 4.3	遺存幅 5.0	－	良好	内外 淡橙褐色	雲母、白色粒	男瓦幅4～5mm。下方で瓦重ね部分、裏面に垂木痕跡あり。21P6
2	瓦塔		屋蓋部	遺存長 6.5	遺存幅 5.2	－	良好	内外 淡橙褐色（一部赤彩）	赤色粒、雲母	男瓦幅3～4mm。裏面に垂木痕跡、下方で重ね部分あり。軒先部分。22P03M
3	瓦塔		屋蓋部	遺存長 8.5	遺存幅 4.6	－	良好	内外 淡橙褐色	白色粒、雲母	男瓦幅4～5mm。裏面制作時下敷き痕跡明瞭。22P30
4	瓦塔		屋蓋部	遺存長 6.5	遺存幅 2.7	－	良好	外 橙褐色 内 淡灰褐色	雲母、白色粒	男瓦幅3～5mm。櫛歯状工具による四みで瓦隅を表現。22P10
5	瓦塔		塔身部出入口部	遺存長 4.2	遺存幅 5.6	－	良好	内外 淡橙褐色（一部黒斑）	白色粒、雲母	内外面平坦。ヘラナデ整形。22P13
6	瓦塔		堂宇周囲部分	遺存長 3.2	遺存幅 8.6	－	良好	内外 淡橙褐色（一部黒斑）	雲母、白色粒	22P42
7	瓦塔		部位不明	遺存長 5.6	遺存幅 7.2	－	良好	内外 橙褐色	白色粒、雲母、石英	ヘラナデ整形。縦逆面一括
8	瓦塔		本瓶身部分	遺存長 9.4	遺存幅 5.6	－	良好	内外 淡橙褐色	雲母、白色粒	輪づみ成形。縦逆面一括
9	瓦塔		塔身部	遺存長 6.2	遺存幅 6.5	－	良好	内外 淡橙褐色	雲母、白色粒	ヘラナデ整形。06T一括
10	瓦塔		塔身部	遺存長 10.6	遺存幅 7.8	－	良好	外 一部赤褐色（赤彩）他 橙褐色	雲母、白色粒	ヘラナデ整形。酸化焔焼成。22P56

第12図　遺構外出土遺物（3）



0　10cm

遺構外遺物観察表（4）確認調査

	種別	器種	部位	計測値（cm）			焼成	色調	胎土	調整・文様等
				器高	口径	底径				
1	中世土器	内耳土鍋	口辺部	-	-	-	良好	内外 暗茶褐色（煤付着）	雲母，石英，砂粒	内外ロクロナデ，外面体部ヘラナデ，7T一括，16ｃ後半。
2	中世土器	内耳土鍋	口辺部	-	-	-	良好	外 暗茶褐色（煤付着）内 橙褐色	雲母，石英，砂粒	内外ロクロナデ，外面体部ヘラナデ，14T一括，16ｃ後半。
3	青磁製品	燈明	脚台・火皿部	長 5.3	火皿部径 2.3	脚台部径 1.1	重 5 17.6 g	-	-	7T一括。
4	石製品	砥石	軽石製	遺存長 5.4	遺存幅 5.3	-	重 5 17.4 g	-	-	13T一括。

第 13 図　遺構外出土遺物（4）

第 2 節　縄文時代の遺構遺物

今回の調査においては，縄文時代早期後半（鵜ヶ島台式～茅山下層式）の炉穴 21 基・ピット 1 基を検出した。分布は，06P ～ 20P，25P ～ 28P，29P ～ 33P の各群に分けられる。以下，各遺構について報告する。

06P（第 9. 14 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.99m × 0.55m × 0.05m の楕円形　**方位**：N-6° -E　**壁**：浅いため不明　**火床**：2 か所でやや焼ける。**底面**：南側でやや上がる。覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：条痕文系土器小片　**備考**：作り替えにより火床面が 2 か所と想定。

07P（第 9. 14 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.65m × 0.59m × 0.05m の円形　**方位**：N-50° -E　**壁**：浅いため不明　**火床**：南壁でやや焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒，焼土ブロック混入　**遺物**：2 点図示

09P（第 9. 14 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.64m × 0.55m × 0.05m の円形　**方位**：N-30° -E　**壁**：浅いため不明　**火床**：北壁中央でやや焼ける。**底面**：西側でやや上がる。覆土：黒褐色土で焼土粒，焼土ブロック混入　**遺物**：条痕文系土器小片

10P（第 9. 14 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.57m × 0.45m × 0m の楕円形　**方位**：N-40° -W　**火床**：火床部のみ遺存　**遺物**：なし

11P（第 9. 14 図・図版 2）

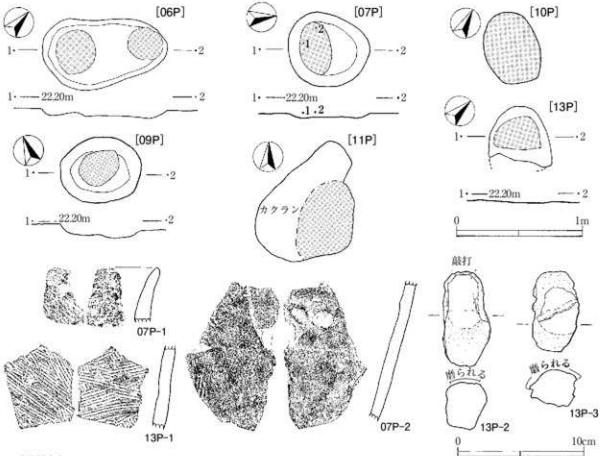
位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.68m × 0.47m × 0m の楕円形　**方位**：N-20° -E　**火床**：火床部のみ遺存　**遺物**：なし

13P（第 9. 14 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.47m × 0.44m 以上× 0.03m の楕円形　**方位**：N-44° -E　**壁**：浅いため不明　**火床**：北壁でやや焼ける。**遺物**：条痕文系土器 1 点，火熱を受けた石器砕片 2 点

14P・15P（第 9. 15 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：［14P］1.50m × 0.82m × 0.18m



07P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。単口縁。内外面共に擦痕状の痕跡が残くみられる。
2	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面に擦痕状の痕跡が残くみられる。

13P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。内外面共に浅い条痕。
2	石器	敲石・磨石	-	全長 7.4	全幅 3.7	厚さ 3.6	重さ 115.3 g。火熱受けを赤色化する。
3	石	磨石	-	全長 6.4	全幅 3.6	厚さ 2.9	重さ 67.4 g。火熱受け黄面焼れる。

第 14 図　06. 07. 09. 10. 11. 13P 遺構実測図・出土遺物

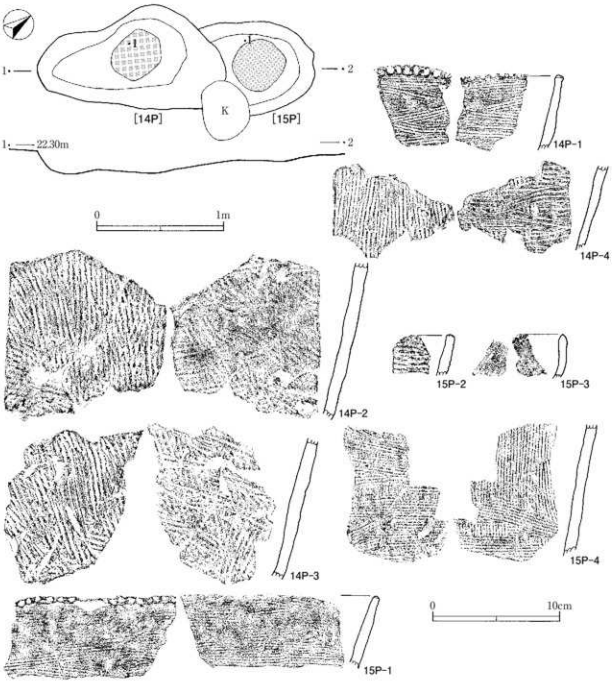
の楕円形［15P］（1.38m）× 0.75m × 0.15m の楕円形　**方位**：N-56° -E　**壁**：緩やかに立ち上がる　**火床**：各々中央やや北側に位置する。**底面**：14P は HL を 15cm掘り込む。15P は HL を 3cm掘り込む。各々平坦　覆土：14P は褐色土で焼土粒混入 15P は暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：土器片は両者とも地文の条痕のみ施文 15P3 は擦痕の素口縁で後出　**備考**：15P が 14P を切るが時間差は見られない

16P（第 9. 16 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.48m × 0.64m × 0.14m の楕円形　**方位**：N-38° -E　**壁**：緩やかに立ち上がる　**火床**：2 か所で南側強く焼ける。**底面**：HL を 10cm掘り込む　覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：条痕文系土器小片　**備考**：南から北へ作り替え。

17P（第 9. 16 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.76m × 1.03m × 0.13m の楕円形　**方位**：S-40° -W　**壁**：浅いため不明　**火床**：西奥で強く焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒混入　**遺物**：いずれも地文の条痕のみ施文　**備考**：18P を切る。



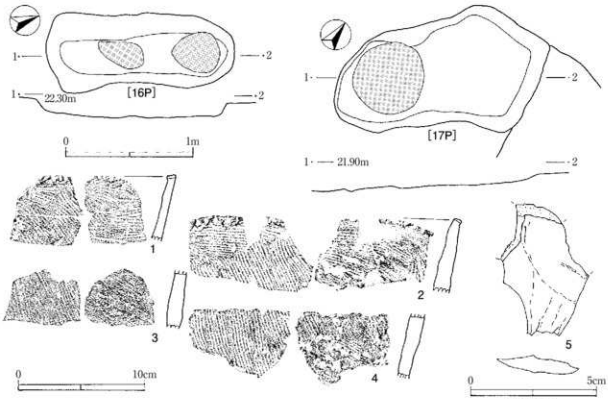
14P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。2.3と同一個体。コの字状口縁部上に押圧キザミ。内外面共に浅い条痕。
2	縄文	深鉢	胴下半	-	-	-	地文のみ施文。外面は浅い縦位の条痕。内面は浅い斜位・横位の条痕。内面下位にこげ付着。
3	縄文	深鉢	胴下半	-	-	-	地文のみ施文。外面は浅い縦位の条痕。内面は浅い斜位・横位の条痕。内面下位にこげ付着。
4	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な縦位の条痕。内面はやや浅い横位の条痕。

15P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。コの字状口縁部上に押圧キザミ。内外面共にやや浅い横位の条痕。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。コの字状口縁部上に縄文。内外面共に浅い横位の条痕。
3	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	単口縁。内外面擦痕のみ。
4	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な横位の条痕。内面は上方で明瞭な縦位の条痕、下方で明瞭な横位の条痕。

第 15 図　14P. 15P 遺構実測図・出土遺物



17P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。外面は浅い斜位の条痕。内面は浅い横位の条痕。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	4と同一個体。地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。外面は口縁直下で明瞭な横位の条痕。下方は縦位の条痕。内面は明瞭な横位の条痕。
3	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は浅い縦位の条痕。内面は浅い横位～斜位の条痕。
4	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な縦位の条痕。内面は斜位の条痕。
5	石器	掻器	珪質頁岩	縦長 5.0	全幅 3.6	重さ 10.5 g	上部に刃部あり。

第 16 図　16P, 17P 遺構実測図・出土遺物

18P（第 9. 17 図・図版 2）

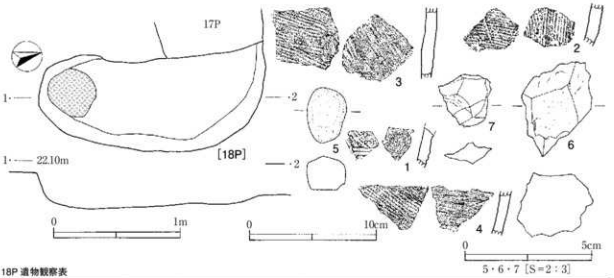
位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.76m ×（1.03）m × 0.18m の楕円形　**方位**：S-16° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる　**火床**：西奥で強く焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒混入　**遺物**：1 は混入土器　他は地文の条痕のみ施文　5. 6 は焼成痕あり　**備考**：17P に切られる。

19P（第 9. 17 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：0.99m × 0.67m × 0.37m の円形　**方位**：S-40° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる　**火床**：南壁奥で強く焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒混入　**遺物**：いずれも地文の条痕のみ施文　**備考**：20P に切られるが時間差はない。

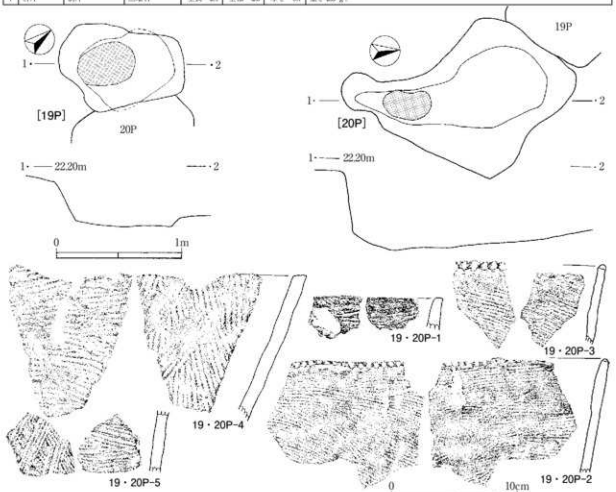
20P（第 9. 17 図・図版 2）

位置：調査区北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.63m × 0.61m × 0.63m の変形楕円形　**方位**：S-5° -W　**壁**：奥壁側で角度をもって立ち上がる　**火床**：南奥と立ち上がり部分で強く焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒混入　**遺物**：いずれも地文の条痕のみ施文　**備考**：19P を切る。奥壁側で煙道部が遺存する。

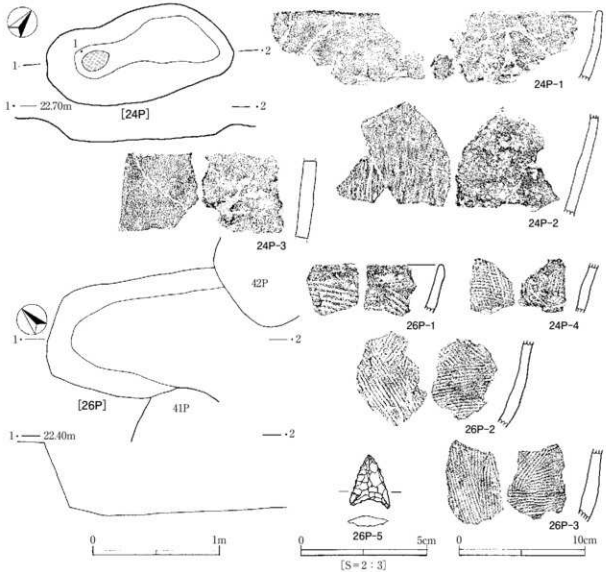


18P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	混入遺物で横位沈線上に斜位縄文施文。
2	縄文	深鉢	胴下半部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な横位の条痕。内面は明瞭な縦位の条痕。
3	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。4と同一個体。内外面とも浅い横位の条痕。
4	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は浅い斜位の条痕。内面は浅い横位の条痕。
5	石片	使用痕ある石片	石材不明	全長 2.2	全幅 1.5	厚さ 1.4	重さ 6.2 g。淡灰色で被熱受ける。
6	石片		石材不明 火成岩　被覆	全長 3.7	全幅 2.7	厚さ 2.6	重さ 28.0 g。淡橙灰色で被熱受ける。
7	石片	剥片	黒曜石	全長 2.1	全幅 2.0	厚さ 0.7	重さ 2.3 g。



第 17 図　18P ～ 20P 遺構実測図・出土遺物



19P. 20P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。コの字状で口唇部上面に縄文施文。内外面共に浅い横位の条痕。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。内外面共に明瞭な横位の条痕。
3	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。外面は浅い斜位の条痕。内面は浅い横位の条痕。
4	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部はコの字の単口縁。外面は明瞭な横位の条痕。内面は明瞭な縦位の条痕。
5	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は浅い斜位の条痕。内面はやや明瞭な横位の条痕。

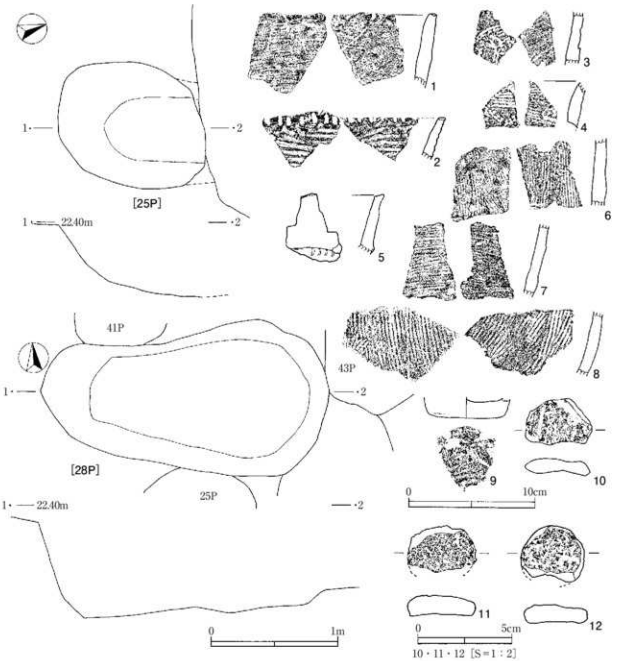
24P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	素口縁。内外面は擦痕のみ。
2	縄文	深鉢	胴下半部	-	-	-	外面は浅い縦位の条痕。内面は擦痕。
3	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	内外面共に擦痕のみ。

26P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。素口縁。外面は明瞭な横位の条痕。内面はやや浅い斜位の条痕。
2	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な縦位、斜位の条痕。内面は上方で斜位、下方で横位の明瞭な条痕。
3	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な縦位の条痕。明瞭なはば横位の条痕。
4	縄文	深鉢	胴下半部	-	-	-	地文のみ施文。外面は横位、縦位の条痕が交差する。内面はやや浅い横位の条痕。
5	縄文	石鏃	はば広形	全長 29	全幅 15	重5.09 g	チャート製。基部はややえぐりあり。

第 18 図　24P. 26P 遺構実測図・出土遺物



25P. 28P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	地文のみ施文。口唇部上面に浅い・キザミ。内外面共に浅い横位の条痕。
2	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。内外面は比較的幅広で明瞭な条痕ないし竹管。
3	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	押引文内に円形竹管を施文。縞ヶ島台式の新しい時期に該当か。
4	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	沈線と押引文による区画文を施文。内面は横位の条痕。
5	縄文	深鉢	口縁部	－	－	－	内外面共に擦痕。隆帯にキザミ。
6	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	地文のみ施文。内外面共にやや浅い縦位の条痕。
7	縄文	深鉢	胴下半部	－	－	－	地文のみ施文。外面はやや浅い横位の条痕。内面は浅い横位の条痕。
8	縄文	深鉢	胴部	－	－	－	地文のみ施文。内外面共に明瞭な縦位の条痕。
9	縄文	深鉢	底部	残存高 1.6	－	6.0	平底。
10	縄文	円盤状土製品	下方欠損	幅 3.4	重さ 8.1 g	－	内外面擦痕。
11	縄文	円盤状土製品	下方欠損	幅 3.5	重さ 10.5 g	－	外面は擦痕。内面は明瞭な条痕。
12	縄文	円盤状土製品	下方欠損	幅 3.4	重さ 9.1 g	－	内外面条痕を磨り消し。

第 19 図　25P. 28P 遺構実測図・出土遺物

24P（第18図・図版2）

位置：調査区中央やや北側（単独）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.48m × 0.73m × 0.19m の楕円形　**方位**：S-72°-W　**壁**：緩やかに立ち上がる　**火床**：西奥で強く焼ける。**底面**：HL 直上で平坦　覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：いずれも擦痕のみ施文

26P（第9.18図・図版2）

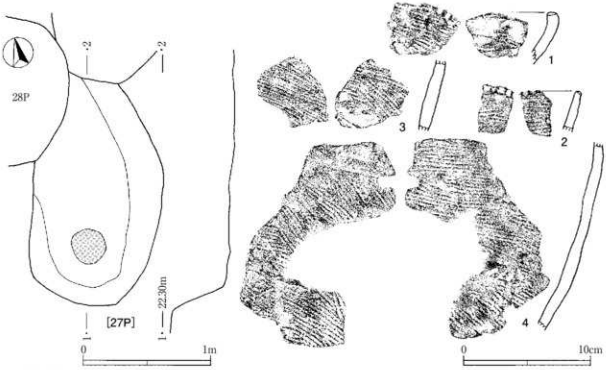
位置：調査区中央（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：(1.80m) × 0.96m × 0.57m の楕円形　**方位**：N-42°-W　**壁**：角度をもち立ち上がる　**火床**：北壁底面及び壁面35cmが強く焼ける。**底面**：平坦で HL を掘り込む　覆土：ローム土で焼土粒混入　**遺物**：いずれも地文の条痕のみ施文　**備考**：41. 42P に切られる。28P に切られる。

25P（第9.19図）

位置：調査区中央（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.15m 以上× 0.98m × 0.56m の楕円形　**方位**：S-26°-W　**壁**：やや緩やかに立ち上がる　**火床**：南壁奥と壁立ち上がりで強く焼ける。**底面**：平坦　HL　覆土：上層で暗褐色土・下層でローム土に焼土粒混入　**遺物**：条痕のみ・押引文に円形竹管文　円盤状土製品　**備考**：28P に切られる。

28P（第9.19図）

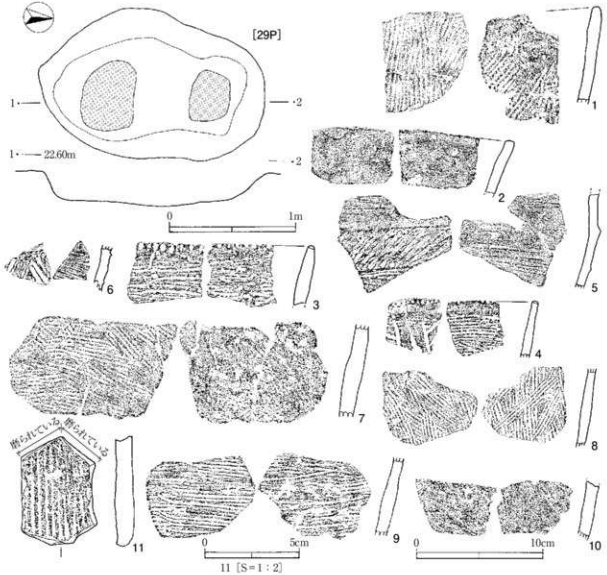
位置：調査区中央（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：2.28m × 1.23m × 0.75m の楕円形　**方位**：N-74°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる　**火床**：西奥及び壁立ち上がりで強く焼ける。**底面**：東側で下がる　HL　覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：25P に同じ　**備考**：25P を切る。



27P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部に2カ所の直線的なキザミ。外面はやや浅い横位の条痕。内面は横位条痕を磨り消し。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。内外面は浅い条痕。
3	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な縦位～斜位の条痕。内面は明瞭な横位～斜位の条痕。
4	縄文	深鉢	胴中位～下半	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な斜位の条痕。内面は明瞭な横位の条痕。

第20図　27P 遺構実測図・出土遺物



29P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	素口縁。外面はやや明瞭な横位の条痕。内面はやや明瞭な斜位の条痕。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	コの字状素口縁。内外面共に擦痕。
3	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。口唇部は竹管による押圧キザミ。外面はやや明瞭な横位の条痕。内面は浅い横位の条痕。
4	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	口唇部は細い竹管による押圧キザミ。外面は沈線を施文。内面は明瞭な横位の条痕。茅山下層式か。
5	縄文	深鉢	胴部上半	-	-	-	外面上方は浅い横位の条痕。中位にくびれ。下位に竹管による沈線で、内部を斜位の明瞭な条痕。内面は浅い横位の条痕。
6	縄文	深鉢	胴部上半	-	-	-	外面は横位沈線下に無文帯で下方に斜位の沈線。内面は浅い横位の条痕。
7	縄文	深鉢	胴中位～下半	-	-	-	地文のみ施文。外面はやや明瞭な斜位～横位の条痕。内面は斜位の条痕が磨り消される。
8	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。内外面共に明瞭な斜位～縦位の条痕。
9	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。内外面共に明瞭な横位の条痕。
10	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面は斜位条痕を磨り消し。内面は擦痕。
11	縄文	土製品	胴部片	全長 5.6	全幅 4.0	重5 24.8 g	外面は浅い縦位の条痕。内面は擦痕。上方二辺が磨られる。土器再利用品。

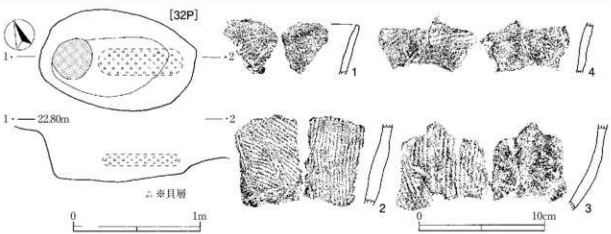
第 21 図　29P 遺構実測図・出土遺物

27P（第 9, 20 図）

位置：調査区中央（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：(1.92m) × 1.03m × 0.75m の楕円形　**方位**：S-10° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる　**火床**：南奥及び壁立ち上がりで強く焼ける。**底面**：平坦　HL　覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：条痕文施文　**備考**：28P に切られる。

31P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。単口縁。外面は浅い縦位・斜位の条痕。内面は浅い横位の条痕。内外面とも火熱によるこげ付着。
2	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	地文のみ施文。内外面とも浅い横位の条痕。



32P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	口縁部	-	-	-	素口縁。内外面は擦痕。
2	縄文	深鉢	胴部	-	-	-	地文のみ施文。外面はやや明瞭な斜位の条痕。内面はやや明瞭な縦位の条痕。
3	縄文	深鉢	胴下位～底部	-	-	-	外面はやや明瞭な縦位の条痕。内面は擦痕。
4	縄文	深鉢	胴部下半	-	-	-	外面はやや明瞭な横位～斜位の条痕。内面は擦痕。

32P 遺物観察表（出土貝）

	種別	重さ
1	サルボウ	2.3 g
2	ハイガイ	25.1 g
3	ハマグリ	17.1 g
4	オキシジミ	25.4 g
5	ウミニナ	27.3 g
6	ヤマトシジミ	28.3 g
7	不明	12.9 g

第 22 図　31P. 32P 遺構実測図・出土遺物

29P（第 21 図）

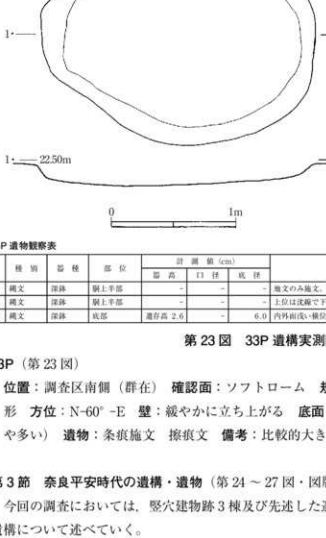
位置：調査区南側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.81m × 1.13m × 0.24m の楕円形　**方位**：N-44° -E　**壁**：やや緩やかに立ち上がる　**火床**：2 か所で強く焼ける。**底面**：平坦　HL 直上　覆土：暗褐色土で焼土粒混入　**遺物**：条痕施文　竹管文　擦痕文　土器再利用品

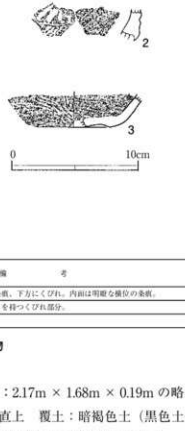
31P（第 22 図）

位置：調査区南側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.00m × 0.56m × 0.09m の楕円形　**方位**：N-68° -W　**壁**：浅いため不明　**火床**：2 か所で焼ける。**底面**：平坦　覆土：褐色土で焼土粒混入　**遺物**：条痕施文のみ

32P（第 22 図）

位置：調査区南側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.23m × 0.75m × 0.45m の楕円形　**方位**：N-40° -W　**壁**：火床面側で角度をもって立ち上がる　**火床**：北側と壁立ち上がりで強く焼ける。**底面**：平坦　HL 中　覆土：暗褐色土で焼土粒混入。上層で貝ブロックあり　**遺物**：条痕施文　擦痕文





33P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	備考
1	縄文	深鉢	胴上半部	-	-	-	地文のみ施文。外面は明瞭な横位の条痕、下方にくびれ。内面は明瞭な横位の条痕。
2	縄文	深鉢	胴上半部	-	-	-	上位は沈線で下段に細かい斜位キザミを持つくびれ部分。
3	縄文	深鉢	底部	遺存高 2.6	-	6.0	内外面浅い横位の条痕。

第 23 図　33P 遺構実測図・出土遺物

33P（第 23 図）

位置：調査区南側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：2.17m × 1.68m × 0.19m の略円形　**方位**：N-60° -E　**壁**：緩やかに立ち上がる　**底面**：平坦　HL 直上　覆土：暗褐色土（黒色土やや多い）　**遺物**：条痕施文　擦痕文　**備考**：比較的大きいピットで出土遺物から該期に比定した。

第 3 節　奈良平安時代の遺構・遺物（第 24 ～ 27 図・図版 6）

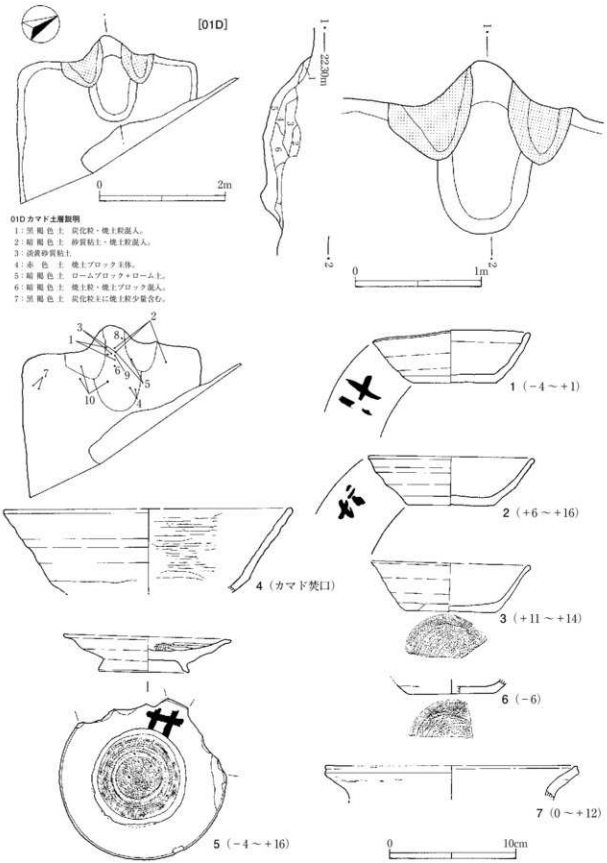
今回の調査においては，竪穴建物跡 3 棟及び先述した遺構外出土遺物の瓦塔片を検出した。以下，各遺構について述べていく。

01D（第 24, 25 図・図版 2）

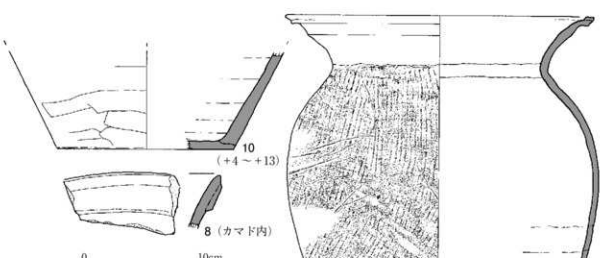
位置：調査区中央やや北側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**主軸方位**：N-72° -W　**重複関係**：02D を切る。**規模・平面形**:2.84m × 2.24m 以上× 0.25m の方形を想定。**壁**:ほぼ垂直に立ち上がる。床面：ハードロームを 5cm掘り下げて地床としている。ほぼ全体に硬化している。カマド：西壁中央に煙道を掘り込み，立ち上がりはやや傾斜をもつ。焚口は床を 25cm掘り込む。袖部分は黒色土･ロームブロック・暗褐色土を核に外側を淡灰色砂質粘土で覆う。覆土：黒褐色土から暗褐色土でやや締まる層で，自然埋没層。**遺物**：カマド内からの出土が多い。焚口奥から，甕破片（9）2 枚重ね・倒立の坏（1）・倒立の坏（2）を重ね合わせた人為の状態で出土している。祭祀に関わる行為を示すと想定されよう。破片数は 77 点と少ない。

02D（第 26 図）

位置：調査区中央やや北側（群在）　**確認面**：ハードローム　**主軸方位**：N-35° -W　**重複関係**：01D に切られる。**規模・平面形**：(4.2m) × 1.40m 以上× 0.38m の方形を想定。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。床面：ハードロームを 25cm掘り下げて地床としている。ほぼ全体に硬化している。**周溝**：検出



第 24 図　01D 遺構実測図・出土遺物（1）



01D 遺物観察表

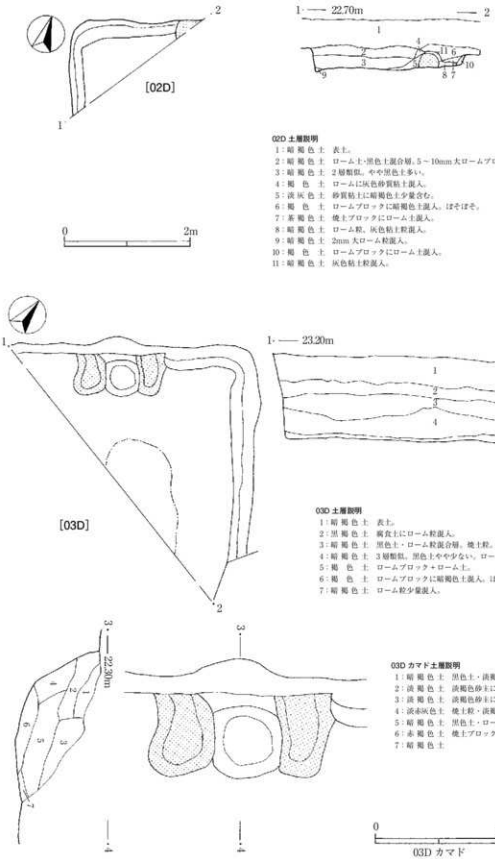
	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	土師器	坏	ほぼ完形	4.2	12.4	6.4	良好	内外 淡橙褐色	雲母多含、長石少量混入	ロクロ使用。外面体部下端 回転ヘラ削り調整。外面体部に「廿」の墨書有。
2	土師器	坏	口縁～底部1/2	3.8	12.8	6.8	良好	内外 暗茶褐色	雲母、長石、赤色粒、砂粒	ロクロ使用。外面体部下端 回転ヘラ削り調整。外面体部に「廿」の墨書有。
3	土師器	坏	口縁1/5～底部1/3	3.8	14	3.5	良好	内外 淡橙褐色	雲母粒、白色粒少量含む	ロクロ使用。外面体部下端～底部周縁 回転ヘラ削り調整。切り離し、回転糸切り。
4	土師器	鉢	口縁～底部1/6	遺存高 6.5	22.4	-	良好	内外 淡橙褐色	雲母多含、赤色粒、石英混入	ロクロ使用。外面体部下端 回転ヘラ削り調整。内面横位ヘラ磨き。
5	土師器	高台付皿	ほぼ完形（口縁部2箇所打ち欠き）	3.3	13.2	高台径 7.4	良好	外 淡橙褐色 内 茶褐色（煤付着）	雲母、長石混入	ロクロ成形。回転糸切り離し後、高台貼付。外面ロクロナデ。内面横位ヘラ磨き。外面体部に「廿」の墨書有。
6	土師器	坏	底部1/4	遺存高 1.2	-	6.8	良好	内外 暗茶褐色	雲母、長石混入	ロクロ使用。外面体部下端～底部周縁 回転ヘラ削り調整。切り離し、回転糸切り。
7	土師器	甕	口縁部1/4	遺存高 2.5	19.8	-	良好	内外 暗茶褐色	雲母多含、石英、赤色粒混入	ロクロ使用。口唇部つまみ上げ。
8	須恵器	甕	口縁部片 1/10	-	-	-	良好	内外 赤茶色	雲母、黒色粒、石英	口縁部ロクロナデ。
9	須恵器	甕	口縁～胴部 1/3	-	-	-	良好	内外 淡橙褐色	雲母多含、長石、石英	ロクロ使用。粘土紐巻上げ。体部外面縦位叩き目文。内面ナデ。
10	須恵器	甕	底部～胴部下位 1/4	遺存高 7.7	-	14.0	良好	内外 暗赤茶褐色	雲母粒、白色粒砂粒	外面胴部横位ヘラ削り。内面ナデ。内面二次焼成により剥離。

第 25 図　01D 出土遺物（2）

部分で全周する。幅 20cm，深さ 10cm。カマド：西壁中央に遺存する。左袖のみ遺存。袖はロームブロック土を核とした土台に壁側に焼土ブロックと暗褐色土を貼りつけ，上部に暗褐色土砂質粘土を乗せている。覆土：暗褐色土・ローム土主体層で，自然埋没層。**遺物**：5 点。小片のみで図示不可。

03D（第 26・27 図）

位置：調査区中央やや北側（群在）　**確認面**：ソフトローム　**主軸方位**：N-38°-W　**規模・平面形**：3.9m 以上× 3.2m 以上× 0.57m の一辺 4.0m の方形を想定。**壁**：ほぼ垂直に立ち上がる。床面：ハードロームを 50cm 掘り下げて地床としている。カマド前に，楕円形状に強く硬化面が遺存している。**周溝**：検出部分で全周する。幅 25cm，深さ 10cm。カマド：北西壁中央に煙道を掘り込むが，明瞭ではない。立ち上がりは傾斜をもっている。焚口は床を 5cm 程度掘り込む。火床部は明瞭な使用痕跡ではなかった。袖部分はローム削り残しの土台上部に焼土ブロック・黒色土混じりの暗褐色土を積み重ね，その上に淡灰色砂質粘土を乗せて袖としている。覆土：暗褐色土系の締まった層で，自然埋没層。**遺物**：カマド東壁側からの出土が多い。カマド右袖脇から，支脚 2 点（14，15）が正位で出土した。祭祀に関わる行為であろうか。遺物破片数は 128 点と少ない。



02D 土層説明

1：暗 褐 色 土　表土。
2：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。5～10mm 大ロームブロック、焼土粒混入。
3：暗 褐 色 土　2 層類似。やや黒色土多い。
4：褐　色　土　ロームに灰色砂質粘土混入。
5：淡 灰 色 土　砂質粘土に暗褐色土少量含む。
6：褐　色　土　ロームブロックに暗褐色土混入。ほそほそ。
7：赤 褐 色 土　焼土ブロックにローム土混入。
8：暗 褐 色 土　ローム粒、灰色粘土粒混入。
9：暗 褐 色 土　2mm 大ローム粒混入。
10：褐　色　土　ロームブロックにローム土混入。
11：暗 褐 色 土　灰色粘土粒混入。

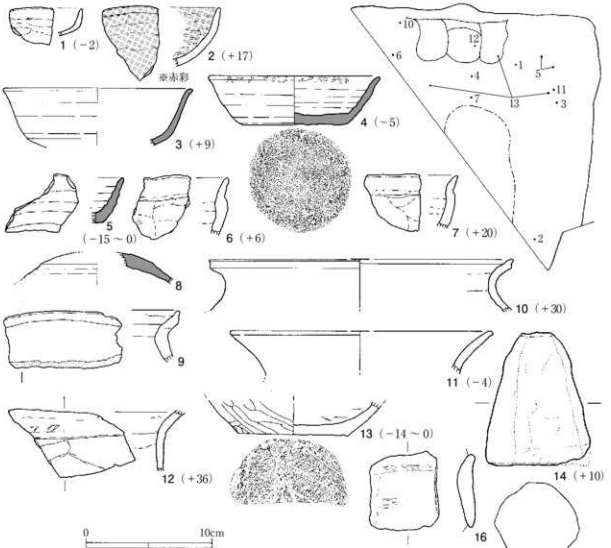
03D 土層説明

1：暗 褐 色 土　表土。
2：黒 褐 色 土　腐食土にローム粒混入。
3：暗 褐 色 土　黒色土・ローム粒混合層。焼土粒。2mm 大ローム粒混入。
4：暗 褐 色 土　3 層類似。黒色土やや少ない。ロームブロック含む。
5：褐　色　土　ロームブロック＋ローム土。
6：褐　色　土　ロームブロックに暗褐色土混入。ほそほそ。
7：暗 褐 色 土　ローム粒少量混入。

03D カマド土層説明

1：暗 褐 色 土　黒色土・淡褐色砂混合層。
2：淡 褐 色 土　淡褐色砂土に黒色土・ロームブロック混入。
3：淡 褐 色 土　淡褐色砂土に 2 層より黒色土少ない。
4：淡赤灰色土　焼土粒・淡褐色砂混合層。
5：暗 褐 色 土　黒色土・ローム土混合層。焼土ブロック混入。
6：赤 褐 色 土　焼土ブロック＋ロームブロック。
7：暗 褐 色 土

第 26 図　02D. 03D 遺構実測図



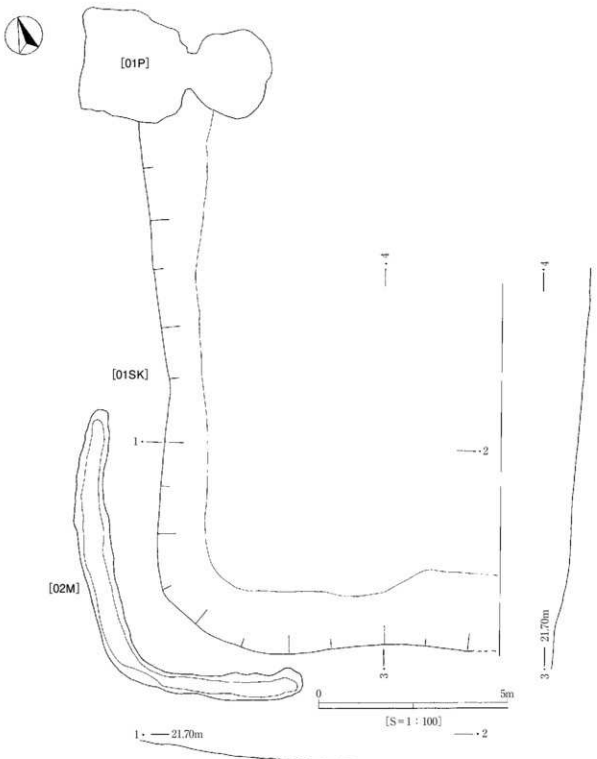
03D 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	土師器	坏	口縁～体部 1/10	-	-	-	良好	内外 淡橙褐色	雲母、長石、砂粒	外面口縁部横ナデ。体部縦いへラ削り。内面横ナデ。
2	土師器	椀	口縁～体部 1/10	-	-	-	良好	内外 赤褐色（赤彩）	雲母、長石、砂粒	外面口縁部横ナデ。体部縦いへラ削り。内面ヘラ磨き（横位）。
3	須恵器	坏	口縁～体部下端 1/6	遺存高 4.5	15.0	-	良好	内外 淡黄色	雲母、石英多含、砂粒含む	ロクロ成形。外面体部下端回転ヘラ削り調整。
4	須恵器	坏	口縁～体部 1/3 欠損	3.9	13.6	8.3	良好	内外 暗黄褐色	雲母多含、長石、石英、赤色粒	ロクロ使用。内外面ロクロナデ。口唇部内外にタール状付着物。
5	須恵器	坏	口縁～底部片	3.5	-	-	良好	外 淡青灰色 内 淡橙灰色	石英、雲母	ロクロ使用。内外面ロクロナデ。
6	土師器	小型鉢	口縁部片	-	-	-	良好	外 淡褐色 内 橙褐色	長石、石英、雲母	口縁内外面横ナデ。外面縦いへラ削り。内面ヘラナデ。
7	土師器	小型鉢	口縁部片	-	-	-	良好	外 淡褐色 内 橙褐色	長石、雲母	口縁部横ナデ。外面胴部縦いへ削り。内面ヘラナデ。
8	須恵器	蓋	体部	遺存高 2.5	-	-	良好	内外 淡青灰色	雲母、石英	ロクロ成形。外面天井部回転ヘラ削り。
9	土師器	甕	口縁部 1/5	-	-	-	良好	内外 淡茶褐色	雲母、石英多含	口唇部つまみ上げ。口縁部横ナデ。内面ヘラナデ。
10	土師器	甕	口縁 1/5	遺存高 4.0	24.0	-	良好	内外 橙褐色	雲母、石英多含	口唇部つまみ上げ。内面ヘラナデ。
11	土師器	甕	口縁 1/6	遺存高 3.6	21.0	-	良好	外 橙褐色 内 茶褐色	雲母、長石、石英、砂粒	口縁部横ナデ。内外面火熱による調整著しい。
12	土師器	甕	頸部 1/5	-	-	-	良好	内外 淡橙褐色	雲母細片、砂粒	口縁部横ナデ。頸部外面斜位ヘラ削り。内面ヘラナデ。
13	土師器	甕	底部 1/2	残存高 2.5	-	8.6	良好	外 暗褐色 内 淡橙色	雲母、石英多含、長石混入	外面胴部下端、縦位ヘラ削り状態き。内面ヘラナデ。底部外面木葉痕。
14	土製品	支脚	頂部完形	全長 10.5	幅 8.0	-	-	-	-	基部2/3 欠損。ヘラナデ。
15	土製品	支脚	頂部完形	全長 15.8	幅 9.7	-	-	-	-	基部一部欠損。ヘラナデ。実測図は 50 ページに掲載。
16	石製品	砥石	下部欠損	遺存高 4.0	幅 6.2	重さ 44.4 g	-	-	-	凝灰岩。すり面に細かい横線。

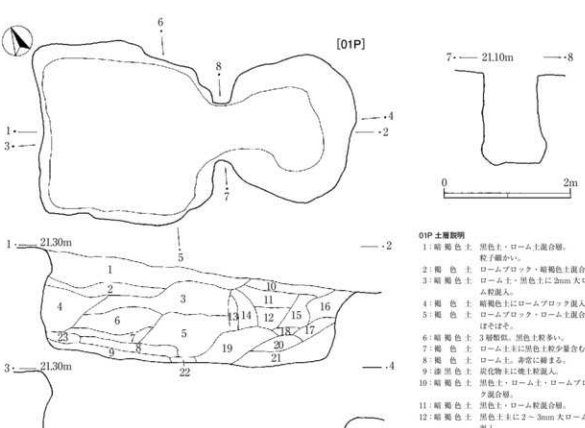
第 27 図　03D 出土遺物

第４節　中世の遺構・遺物（第 28 ～ 42 図・図版 6）

今回の調査においては，台地整形区画１ヵ所（01SK・02M），地下式坑３基（01P・46P・53P），溝状遺構５条（01M・03M・04M・05M・06M），竪穴状遺構３基（21P・22P・23P），ピット８基（44P・45P・47P ～ 52P），土塁１ヵ所（01DR）を検出した。エリアとしては，南側の土塁・04M 本体とその内側及び 06M を境界とした範囲，中央の 03M と竪穴状遺構３基の範囲，北側の 01SK・01P と 01M を



第 28 図　01SK 遺構実測図



第 29 図　01P 遺構実測図

境界とした範囲に分けられる。以下，各遺構について述べていく。

01SK（第 28 図・図版 3）

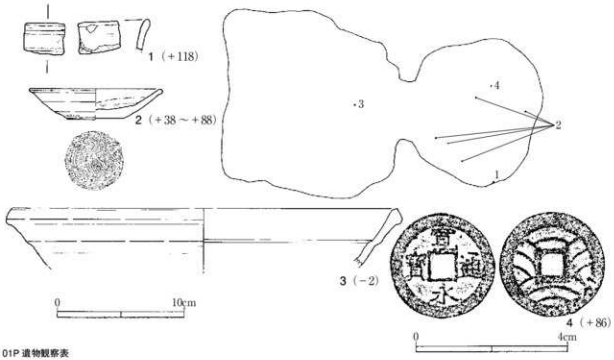
位置：調査区北側　**確認面**：ハードローム　**方位**：N-4° -W　**規模・平面形**：台地縁辺部に位置し L 字形状で，東西 8.9m ×南北 13.5m ×整形高低差 0.35m ～ 0.5m の区画である。整形は 01P に及ぶ。南西コーナーに 02M を配する。整形面内側には，遺構は確認できなかった。

02M（第 28 図・図版 3）

位置：調査区北側　**確認面**：ハードローム　**方位**：N-4° -W　**規模・平面形**：01SK コーナーに沿う形で配される。L 字形状で東西 5.1m ×南北 6.9m ×深さ 0.1 ～ 0.2m である。覆土：暗褐色土でローム粒含む。粒子細かい。**底面**：凹凸が著しい。遺物は確認できなかった。

01P（第 29 図・図版 2）

位置：調査区北側（単独）　**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：縦坑 2.3m × 2.0m ×深さ 1.1m



01P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	中世土器	内耳土鍋	口辺部片	−	−	−	良好	外 濃黒色（煤付着） 内 赤茶褐色	赤色粒、雲母	内外ロクロナデ。
2	瀬戸・美濃焼	縁釉状み皿	口辺～ 底部4/5	2.4	10.5	4.6	良好	内外 灰白色 内面上辺に灰釉施釉	ち密	ロクロ成形。底部回転糸切り離し未調整。内面見込み面及び外面に煤付着。灯明皿として使用。16c 頃。大窯1段階。
3	常滑焼	甕	口辺部1/5	残存高 4.5	30.2	−	良好	内外 赤茶色	ち密	19 c。
4	金属製品	銭貨	完形	外縁 2.8	内区 0.6	重さ 4.6 g	−	−	−	「寛永通寶」鋳造。

第 30 図　01P 出土遺物

の円形　地下室 2.75m × 2.75m × 深さ 1.7m の方形　全長 5.0m **方位**：N−60° −W　**壁**：地下室側ではアーチ状の掘り込み　竪坑では直立する。**底面**：竪坑から地下室までほぼ平坦。坑底は褐色粘土層中　覆土：天井崩落層が下層に堆積する。地下室奥最下層に 9 層として炭化物・焼土層が 15cm 見られた。**遺物**：2 は竪坑の出土で，灯明皿としての利用が想定される。3. 4 から江戸時代の状況が知れよう。

21P・23P（第 31・32 図）

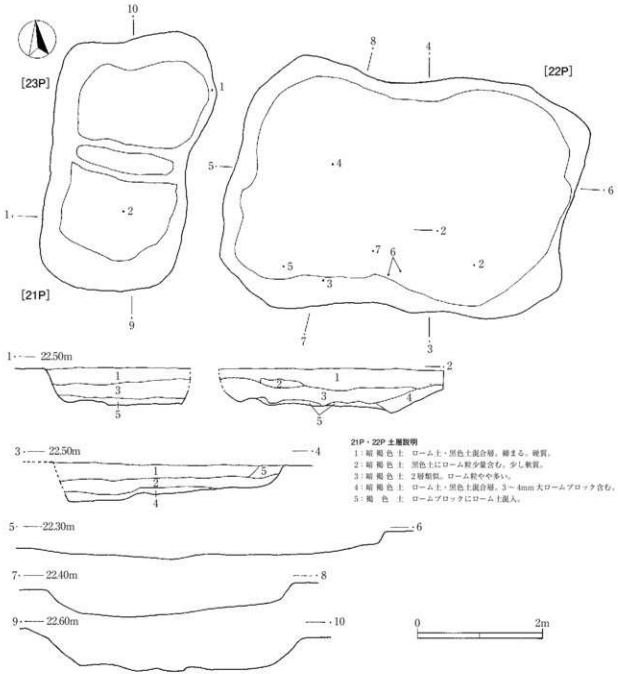
位置：調査区中央　**確認面**：ソフトローム下位　**規模・平面形**：連結時 4.1m × 2.2m × 0.5m の不整長方形　**方位**：N−6° −E　**壁**：中間に浅い仕切り溝がある。**底面**：HL を掘り込む。21P はやや凹凸あり 23P は平坦　覆土：暗褐色土でローム粒多い　**遺物**：中近世遺物が混在する。

22P（第 31・第 33 図）

位置：調査区中央　**確認面**：ソフトローム下位　**規模・平面形**：5.35m × 4.04m × 0.4m の不整長方形　**方位**：N−6° −E　**壁**：やや緩やかに立ち上がる。**底面**：HL を掘り込む。やや凹凸あり
覆土：暗褐色土でローム粒多い　**遺物**：1 は伝世品。天目茶碗の他，生活用品が見られる。
備考：これら 3 遺構は，竪穴遺構として，方位・立地等から関連施設と位置づけられよう。

44P（第 34 図・図版 3）

位置：調査区南側・土塁内側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：2.85m × 1.75m 以上× 0.5m の四角状。**方位**：N−80° −W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：HL を掘り込むが，底面は暗褐色土層で平坦。覆土：4 層に分層。褐色土でローム粒含む層でやや締まりに欠く。自然埋没層。遺物なし。**備考**：45P, 49P と共に土塁内部の施設に該当する。

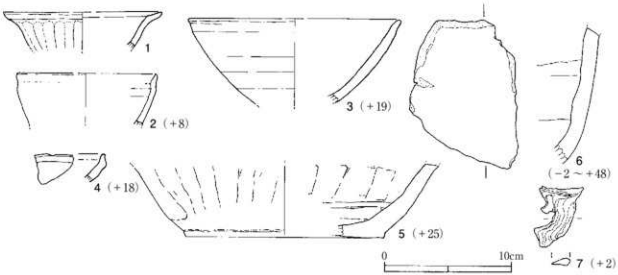


第 31 図　21P. 22P. 23P 遺構実測図

21P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	中世土器	内耳土鍋	底部1/6	遺存高 5.7	-	-	良好	外 黒茶褐色 内 橙褐色	白色粒、雲母、砂粒	外面下端ヘラ削り，内面横位ナデ，ロクロ成形。
2	美濃焼	擂鉢	体部下端	-	-	-	良好	外 淡黄色 内 淡赤茶色	ち密	近世。
3	石製品	砥石	凝灰石	遺存長 5.7	遺存幅 2.6	重さ 50.1 g				左側面、下面は破損後も使用している。

第 32 図　21P 出土遺物



22P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	青磁	蓮弁文口折鉢	口縁部 1/5	遺存高 3.5	12.6	−	良好	内外 黄緑色	ち密	13 c 中頃～ 14 c 初頭前後。中国産龍泉窯系。
2	瀬戸・美濃焼	鉄釉天目茶碗	口辺部 1/5	遺存高 4.2	11.0	−	良好	内外 暗赤茶色	ち密	ロクロナデ。16 c 後半。大窯段階。
3	瀬戸・美濃焼	灰釉平碗	口辺部 1/5	遺存高 6.6	16.6	−	良好	内外 淡黄灰色	ち密	ロクロナデ。古瀬戸後期期 15 c 。
4	瀬戸・美濃焼	灰釉丸皿	口辺部片	−	−	−	良好	内外 白緑灰色	ち密	ロクロナデ。16 c 後半。大窯段階。
5	常滑焼	甕	底部 1/4 弱	遺存高 5.7	−	15.7	良好	外 淡茶灰色 内 灰色	白色粒、長石	ロクロナデ。外縦位ヘラなで内横位ヘラなで。
6	常滑焼	甕	胴部下半	−	−	−	良好	外 赤茶色 内 淡橙褐色	石英、白色粒	ロクロナデ。内横位ヘラなで。
7	貝製品	お玉か	赤にし貝螺旋部（内側）	遺存高 4.8	幅 4.0	重 3 12.5 g				

第 33 図　22P 出土遺物

45P（第 34 図）

位置：調査区南側・土墓内側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：2.10m × 0.9m 以上× 0.43m の四角状。**方位**：N-66° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：HL を掘り込むが，底面は暗褐色粘土層で平坦。覆土：3 層に分層。暗褐色土でローム粒含む層でやや締まりに欠く。自然埋没層。遺物なし。**備考**：44P, 49P と共に土墓内部の施設に該当する。

46P（第 34 図・図版 3）

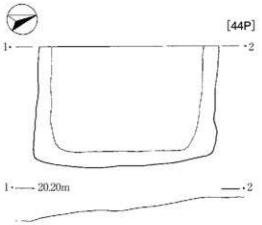
位置：調査区南側・土墓内側。**確認面**：褐色粘土層　**規模・平面形**：3.20m × 2.60m × 0.48m の長方形。**方位**：S-26° -W　**壁**：土墓法面を削る。角度をもって立ち上がる。**底面**：HL を掘り込むが，低面は暗褐色粘土ないし白色砂質粘土層で平坦。覆土：3 層に分層。暗褐色土から褐色土でローム粒含む層でやや締まりに欠く。自然埋没層。**遺物**：1 点のみ。**備考**：土墓内部の施設に該当し，竪坑が地下室の上部に位置する地下式坑に想定される。

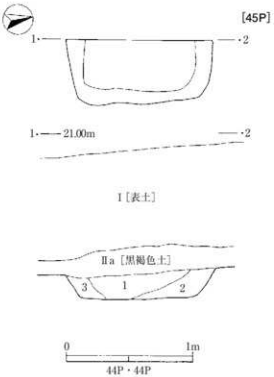
47P（第 35 図）

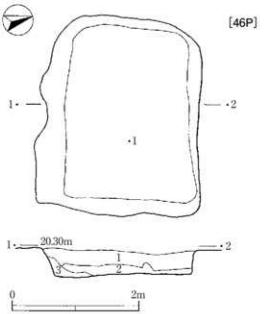
位置：調査区南側・土墓内側。**確認面**：褐色粘土層　**規模・平面形**：1.11m × 0.96m × 0.29m の円形**方位**：N-48° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：暗褐色粘土で平坦。覆土：2 層に分層。暗褐色土でローム粒含む層で締まる。**遺物**：なし　**備考**：土墓内部の施設に該当するが，用途不明。

48P（第 35 図）

位置：調査区南側・土墓内側。**確認面**：褐色粘土層　**規模・平面形**：0.72m × 0.72m × 0.31m の円形。**方位**：N-48° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：暗褐色粘土で平坦。覆土：2 層に分層。暗褐色土でローム粒含む層で締まる。**遺物**：なし。**備考**：土墓内部の施設に該当するが，用途不明。







44P 土層説明

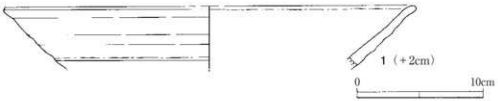
1：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。やや締まりなし。
2：褐　色　土　1層類似。ローム粒やや多い。
3：黒 褐 色 土　ロームブロック 3mm 大含む。
4：暗 褐 色 土　1層類似。黒色土やや多い。

45P 土層説明

1：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。やや締まり欠く。
2：暗 褐 色 土　1層類似。ロームブロック含む。黒色土やや多い。
3：暗 褐 色 土　黒色土・ローム土混合。ロームブロック含む。

46P 土層説明

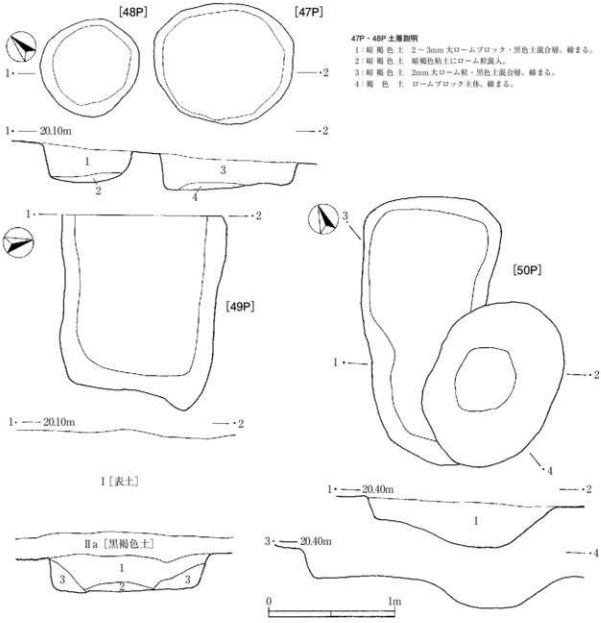
1：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土主に5～10mm ロームブロック混入。締まり欠く。
2：褐　色　土　ロームブロック主体。暗褐色土混入。締まり欠く。
3：褐　色　土　暗褐色土・ロームブロック・淡黄褐色砂質土混合層。締まる。



46P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	瀬戸・美濃焼	直縁大皿	口縁部	遺存高 4.8	32.4	－	良好	内外 淡緑灰色	ち密	灰釉。古瀬戸（アナガマ式）後Ⅱ期。15 c 代。流れ込み。生活用具。

第 34 図　44P ～ 46P 遺構実測図・出土遺物



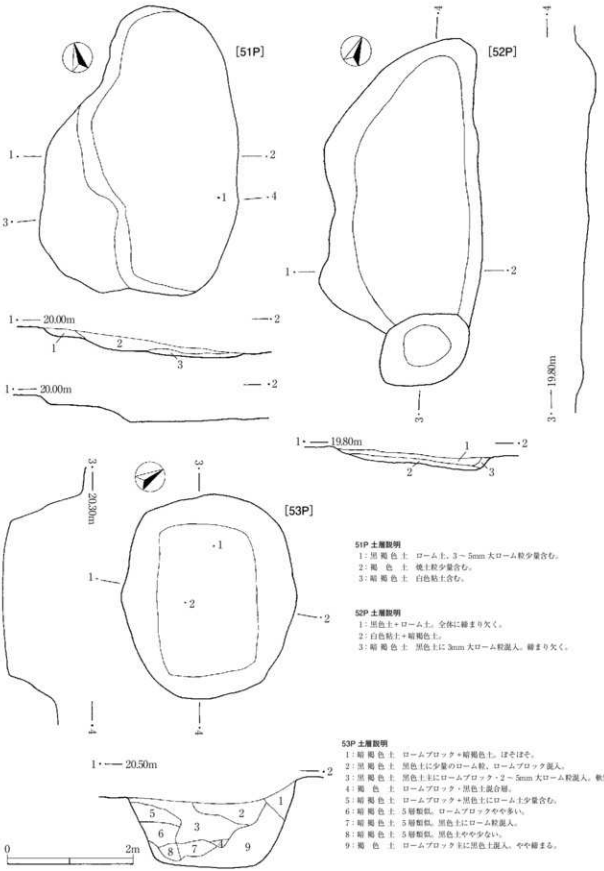
第 35 図　47P ～ 50P 遺構実測図

49P（第 35 図）

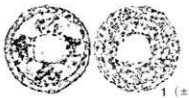
位置：調査区南側・土塁内側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.80m × 1.50m 以上× 0.31m の四角状。**方位**：N-74°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：HL を掘り込むが，底面は暗褐色粘土層で平坦。覆土：3 層に分層。暗褐色土でローム粒・焼土粒含む層。自然埋没層。遺物なし。**備考**：44P, 45P と共に土塁内部の施設に該当する。

50P（第 35 図）

位置：調査区南側・土塁内側。**確認面**：褐色粘土層中　**規模・平面形**：長方形 1.95m ×円形 1.35m ×円形部 0.35m の合体形。**壁**：円形部で緩やかに立ち上がる。**底面**：白色粘土層。覆土：暗褐色土で焼土粒含む層。遺物なし。**備考**：土塁内部の施設に該当するが用途不明。



第 36 図　51P ～ 53P 遺構実測図



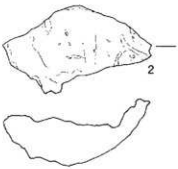
1（±0）

51P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	調整・文様等
1	金属製品	銭貨	完形	外縁 2.3	内径 0.7	重さ 2.0 g	銹発元寶。

0 4cm

1



2

0 10cm

53P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	常滑焼	鉢	口辺～胴部	-	-	-	良好	内外 赤茶色	石英，小石粒	口縁部内外ロクロナデ。胴部内外ロクロナデ。10 整式（15～16 c）。
2	鉄滓	楕形滓		横長 11.7	縦長 6.9	重さ 251.7g	-	-	-	磁気なし。

第 37 図　51P. 53P 出土遺物

51P（第 36 図）

位置：調査区南側・土塁内側。**確認面**：褐色粘土層中　**規模・平面形**：4.55m × 3.05m × 0.4m で西側にテラス状の浅い掘り込みを持つ。不整楕円形　**方位**：N-20° -E　**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：白色粘土層。覆土：3 層に分層。上層で黒褐色土，下層で褐色土に焼土粒混入。**遺物**：銭貨 1 点。

備考：土塁内部の施設に該当するが用途不明。

52P（第 36 図）

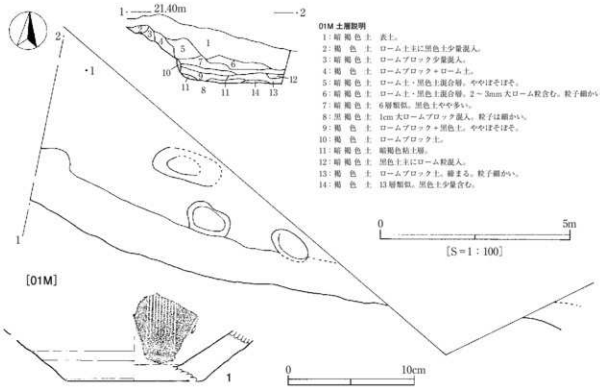
位置：調査区南側・土塁内側。**確認面**：白色粘土層中　**規模・平面形**：5.48m × 2.50m × 0.38m で南側に円形の掘り込みを持つ。不整楕円形　**方位**：N-30° -W　**壁**：緩やかに立ち上がる。**底面**：白色粘土層中。覆土：3 層に分層。上層で黒褐色土，下層で暗褐色土。**遺物**：混入遺物 2 点。**備考**：土塁内部の施設に該当するが用途不明。

53P（第 36 図・図版 3）

位置：調査区南側・土塁内側裾部。**確認面**：暗褐色粘土層中　**規模・平面形**：3.24m × 2.70m × 1.46 の隅丸長方形　**方位**：S-34° -W　**壁**：角度をもって立ち上がる。土塁裾部を削る。**底面**：白色粘土層中で同層を 70cm 掘り込む。平坦。覆土:9 層に分層。上層で暗褐色土から黒褐色土，4 ～ 9 層でロームブロック混じりの暗褐色土から褐色土（天井部崩落層）。**遺物**：図示した 1 点。**備考**：土塁内部の施設に該当し，竪坑が地下室の上部に位置する地下式坑に想定される。

01M（第 38 図・図版 3）

位置：調査区北側・台地縁辺。**確認面**：ソフトローム下層～ハードローム上層　**規模等**：全長 14.46m ×幅 4.76m 以上×深さ 1.46m。**方位**：N-80° -W　**壁**：底面から 0.5m では角度をもって立ち上がり，上部では，やや緩やかに立ち上がる。対面の壁立ち上がりは確認できないため，平坦に崖面に至ると想定される。**底面**：ハードローム層から褐色粘土層で，不規則に楕円形状の浅い掘り込みが見られるが平坦である。覆土：14 層に分層。ローム，ロームブロック主体の土層で，土手の崩壊土に想定されよう。**遺物**：図示した 1 点が底面近くから出土した。**備考**：館北側の防御施設（横堀）に想定される。



01M 遺物観察表

	種 別	器 種	部 位	計 測 値 (cm) 器高	口径	底径	焼成	色 調	胎 土	調 整 ・ 文 様 等
1	中世土器	擂鉢	底部～胴部	遺存高 4.0	～	11.0	良好	外 淡橙褐色 内 淡灰褐色	長石多含、赤色粒	16 c 代瀬戸擂鉢模倣。10 本 1 単位。

第 38 図　01M 遺構実測図・出土遺物

03M（第 39 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ハードローム　**規模等**：〔北側〕全長 12.28m ×幅 0.8m ×深さ 0.6m。中途から分岐する。**方位**:N-8° -E〔南側〕全長 16.80m 以上×幅 1.2m ×深さ 0.96m。**方位**:N-2° -E　**壁**:両者とも逆梯形を呈する。**底面**：ハードロームを 0.3m 程度掘り込む。概ね平坦である。覆土：6 層に分層。暗褐色土に炭化粒含む層。**遺物**：6 点が覆土中から出土。**備考**：戦国期の排水施設に想定。

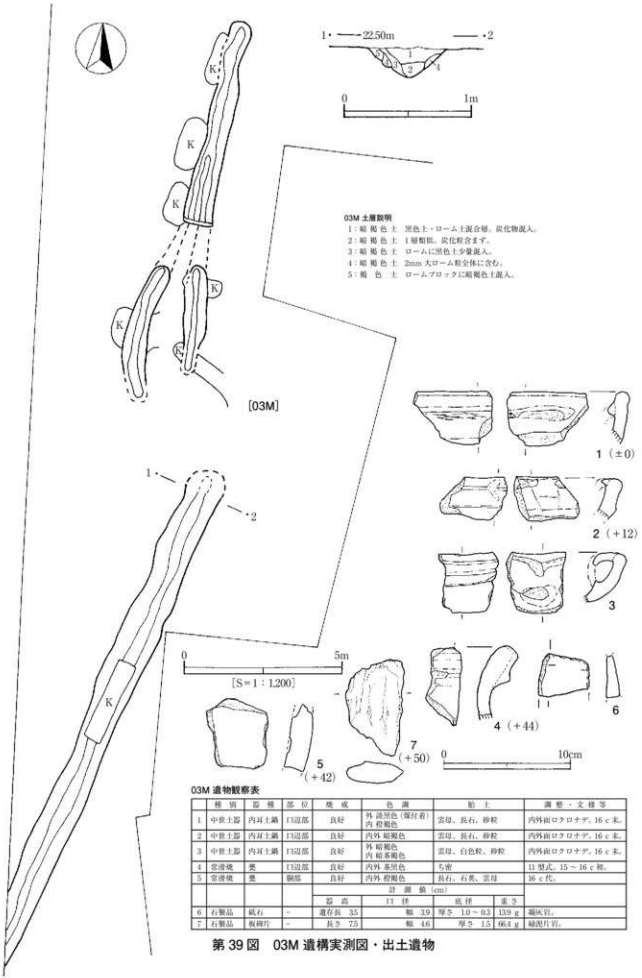
04M（第 40, 41 図・図版 2）

位置：調査区南側・01DR の外側に沿う形で遺存。**確認面**：ハードローム　**規模等**：全長 13.80m 以上×幅 7.55m ×深さ 1.80m。**方位**：N-86° -W 〔底面溝 SEC3-4 間〕全長 13.40m 以上×幅 2.20m ×深さ 0.55m。**壁**：北側では，三段の階段状をなす。土塁側では角度をもって立ち上がる。**底面**：底面溝以外は平坦。東側はそのまま台地縁辺に至ると想定。覆土:21 層に分層。4 層以下褐色土系の覆土は，土塁封土の崩落土の一部と想定される。また，18・20 は堀底道としての硬化面と考えられる。更に 21 は埋まる過程での土坑等の掘り込みである。全体としては，自然埋没層である。**遺物**：なし。

備考：05M と共に 01DR 外側の堀で，土塁附属の施設に該当する。

05M（第 40 図）

位置：調査区南側・04M に沿う形で遺存。**確認面**：ハードローム　**規模等**：全長 12.80m 以上×幅 0.85m ～ 1.45m ×深さ 0.35m。**方位**：N-80° -W　**壁**：U 字形断面を呈する。**底面**：ハードロームを 0.35m 程度掘り込む。覆土：3 層に分層。暗褐色土主体の自然埋没層。**遺物**：なし。**備考**：04M と共に 01DR に付随した施設に該当する。

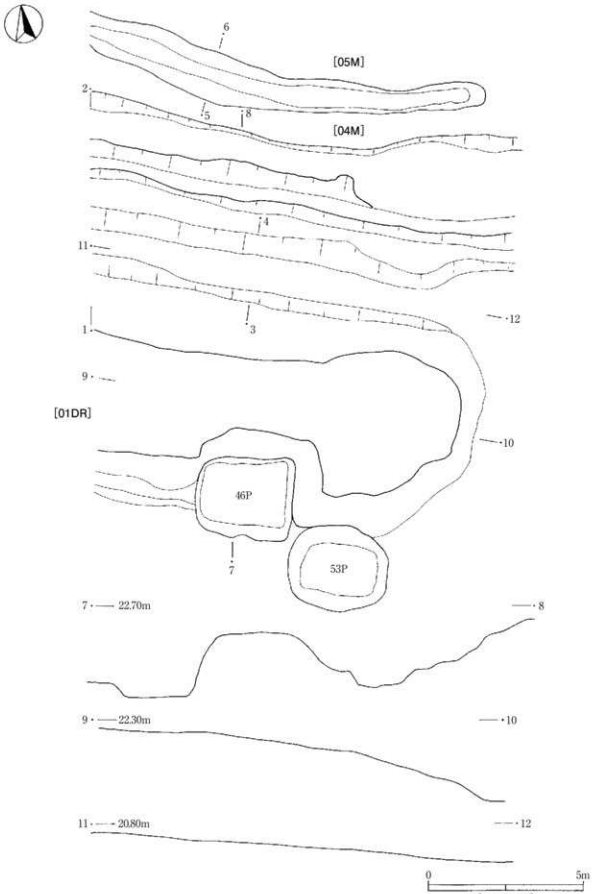


03M 遺物観察表

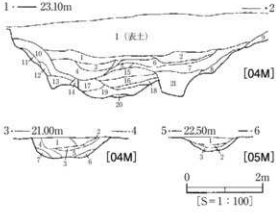
	種別	器種	部位	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	中世土器	内耳土鍋	口辺部	良好	外 淡黒色（煤付着） 内 橙褐色	雲母、長石、砂粒	内外面ロクロナデ。16 c 末。
2	中世土器	内耳土鍋	口辺部	良好	内外 暗褐色	雲母、長石、砂粒	内外面ロクロナデ。16 c 末。
3	中世土器	内耳土鍋	口辺部	良好	外 暗褐色 内 暗茶褐色	雲母、石色粒、砂粒	内外面ロクロナデ。16 c 末。
4	常滑焼	甕	口辺部	良好	内外 茶黒色	5密	11 型式、15 ～ 16 c 初。
5	常滑焼	甕	胴部	良好	内外 橙褐色	長石、石英、雲母	16 c 代。

			計測値（cm）				
			器高	口径	底径	重さ	
6	石製品	砥石	-	遺存長 3.5	幅 3.9	厚さ 1.0 ～ 0.3	13.9 g	凝灰岩。
7	石製品	板碑片	-	長さ 7.5	幅 4.6	厚さ 1.5	66.4 g	緑泥片岩。

第 39 図　03M 遺構実測図・出土遺物



第 40 図　04M. 05M. 01DR 遺構実測図



04M（3-4 間）土層説明

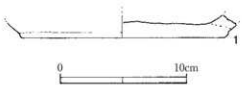
1：暗褐色土　ロームブロックにローム土混入。やや締まる。
2：暗褐色土　5mm 大ロームブロック混入。やや締まる。
3：黒褐色土　ローム粒混入。締まる。
4：暗褐色土　ローム土に黒色土混在。ややぼそぼそ。
5：褐　色　土　ローム土。非常に締まる。
6：褐　色　土　ローム土。やや軟質。
7：暗褐色土　4層類似。黒色土やや多い。

05M（5-6 間）土層説明

1：暗褐色土　黒色土・ローム土混合。締まる。粒子細かい。
2：暗褐色土　1層類似。黒色土1層より多い。
3：褐　色　土　ローム土。締まる。

04M（1-2 間）土層説明

1：暗褐色土　黒色土主に1～2mm大ローム粒全体に含む。さらさら。
2：黒褐色土　1層類似。ローム粒やや少ない。
3：暗褐色土　1層類似。ローム粒やや多い。
4：暗褐色土　黒色土・ローム土混合層。7～8mm大ロームブロック混入。
5：褐　色　土　ローム土。
6：暗褐色土　ローム土・黒色土混合層。締まる。
7：暗褐色土　6層類似。ロームやや多い。
8：褐　色　土　ローム土・2～3mm大ロームブロック混合層。さらさら。
9：褐　色　土　ハードローム＋暗褐色土。
10：黒褐色土　ローム粒ごく少量含む。
11：褐　色　土　8層類似。ロームブロックやや少ない。
12：暗褐色土　ローム土・黒色土混合層。3mm大ロームブロック混入。
13：暗褐色土　12層類似。黒色土やや多い。
14：褐　色　土　ローム土＋ロームブロック。
15：褐　色　土　ローム土主に黒色土少量含む。非常に締まる。
16：褐　色　土　15層類似。黒色土やや多い。
17：暗褐色土　黒色土・ローム土混合層。1cm大ロームブロック混入。やや軟質。
18：褐　色　土　ローム土。非常に締まる。
19：褐　色　土　ローム土主に黒色土混入。2～3mm大ローム粒含む。やや軟質。
20：褐　色　土　ローム土主に黒色土少量含む。非常に締まる。
21：暗褐色土　黒色土・ローム土混合層。白色粒子含む。締まる。



土塁内側遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値（cm） 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	中世土器	内耳土鍋	底部1/4強	遺存高 17	-	16.2	良好	外 淡茶褐色 内 黒灰色（こげが断面に見示）	雲母、石英多含	内外面ナデ。

第 41 図　04M. 05M 遺構実測図・出土遺物

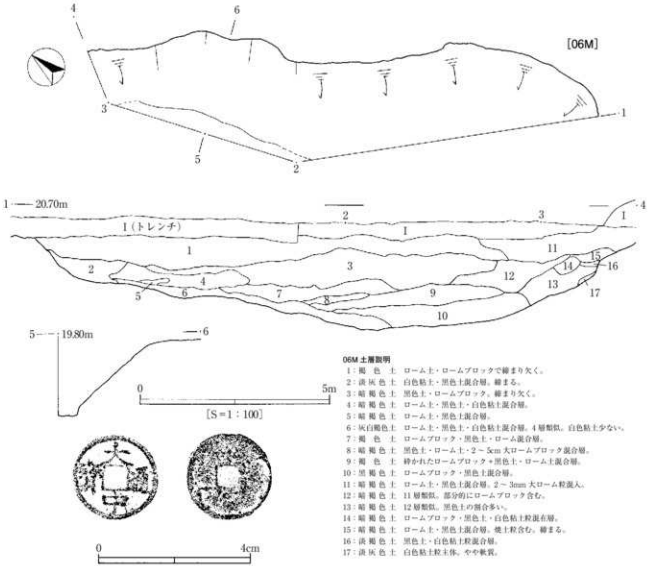
01DR（第 8. 40 図・図版 2. 3）

位置：調査区南側・04M. 05M の内側に沿う形で土塁基部が遺存。調査区外は土塁本体が保存される。**確認面**：ハードローム　**規模等**：全長 12.70m 以上×幅 7.20m ×深さ 2.25m。**方位**：なし

（調査区外含む土塁規模） 東辺 26m ×北辺 26m ×西辺 12m のコの字状で，幅 7.20m である。西辺南端部がやや高くなり，櫓台に想定される。そして 06M に続く。郭内部の出入り口である虎口は，この部分に想定される。現状では，土塁とその内側の比高差は 2m となっている。土塁内側（主郭）では，46P・53P が縁辺部分を削り造られている。44P・45P・49P は内部に規則的に配される。その他の遺構は不規則に配される。**郭内の面積は**，450㎡程度となっている。

06M（第 42 図・図版 3）

位置：調査区南側・台地縁辺。**確認面**：暗褐色粘土層中　**規模等**：全長 13.0m 以上×幅 2.4m 以上×深さ 2.0m。**方位**：N-34°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。底面が台地傾斜面のため，対面の壁立ち上がりはない。**底面**:白色粘土層中で一部確認できた。覆土:17 層に分層。全体にハードローム，ローム土，白色粘土，黒色土が混合した土層であり，一部は溝内側での土手状封土としての可能性も考慮されるが断定はできない。**遺物**：確認面より銭貨 1 点が出土。その他覆土中での本遺構に伴う出土品はなかった。**備考**：01DR　外側の堀で，土塁附属の施設に該当する。



06M 土層説明

1：褐　色　土　ローム土・ロームブロックで締まり欠く。
2：淡 灰 色 土　白色粘土・黒色土混合層。締まる。
3：暗 褐 色 土　黒色土・ロームブロック。締まり欠く。
4：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土・白色粘土混合層。
5：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。
6：灰白褐色土　ローム土・黒色土・白色粘土混合層。4 層類似。白色粘土少ない。
7：褐　色　土　ロームブロック・黒色土・ローム混合層。
8：暗 褐 色 土　黒色土・ローム土・2 ～ 5cm 大ロームブロック混合層。
9：褐　色　土　砕かれたロームブロック・黒色土・ローム土混合層。
10：黒 褐 色 土　ロームブロック・黒色土混合層。
11：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。2 ～ 3mm 大ローム粒混入。
12：暗 褐 色 土　11 層類似。部分的にロームブロック含む。
13：暗 褐 色 土　12 層類似。黒色土の混合多い。
14：暗 褐 色 土　ロームブロック・黒色土・白色粘土粒混在層。
15：暗 褐 色 土　ローム土・黒色土混合層。焼土粒含む。締まる。
16：淡 褐 色 土　黒色土・白色粘土粒混合層。
17：淡 灰 色 土　白色粘土粒主体。やや軟質。

06M 遺物観察表

	種　別	器　種	部　位	計　測　値（cm）			焼成	色　調	胎　土	調　整・文　様　等
				器高	口径	底径				
1	金属製品	銭貨	完形品	外縁　2.3	内区　0.6	重さ　4.5 g	-	-	-	大中通寶。

第 42 図　06M 遺構実測図・出土遺物

第5節　近世の遺構・遺物（第43～48図・図版2）

今回の調査においては，ピット15基（02～05P・12P・34～43P）を検出した。エリアとしては，調査区北側の02P・03P・04P・05Pの一群，中央の34P・35P・36P・37P・38P・39P・40P・41P・42P・43Pの一群に分けられる。各遺構について述べていく。

02P（第43図）

位置：調査区北側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.33m × 0.74m ×深さ0.95m・0.41mの楕円形。**方位**：N-82°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：2段に掘り込む。底面はハードロームを掘り込む。覆土：2層に分層。下層の褐色土はやや軟質な層。人為堆積層か。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

03P（第43図）

位置：調査区北側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.83m × 1.22m ×深さ0.08m・0.35mの隅丸長方形。**方位**：N-72°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：2段に掘り込む。底面はハードロームを掘り込む。覆土：5層に分層。下層3～5の褐色土はやや軟質な層。人為堆積層か。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

04P（第43図）

位置：調査区北側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：1.12m × 0.72m以上×深さ0.81mの楕円形。**方位**：N-82°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：2段に掘り込む。底面はハードロームを掘り込む。覆土：2層に分層。下層の褐色土はやや軟質な層。人為堆積層か。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

05P（第44図）

位置：調査区北側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：2.58m × 1.54m ×深さ0.80m・0.25mの円形・方形の合体。**方位**：N-78°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：2段に掘り込む。底面はハードロームを掘り込む。覆土：11層に分層。下層の褐色土はやや軟質な層。人為堆積層か。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

12P（第44. 45図）

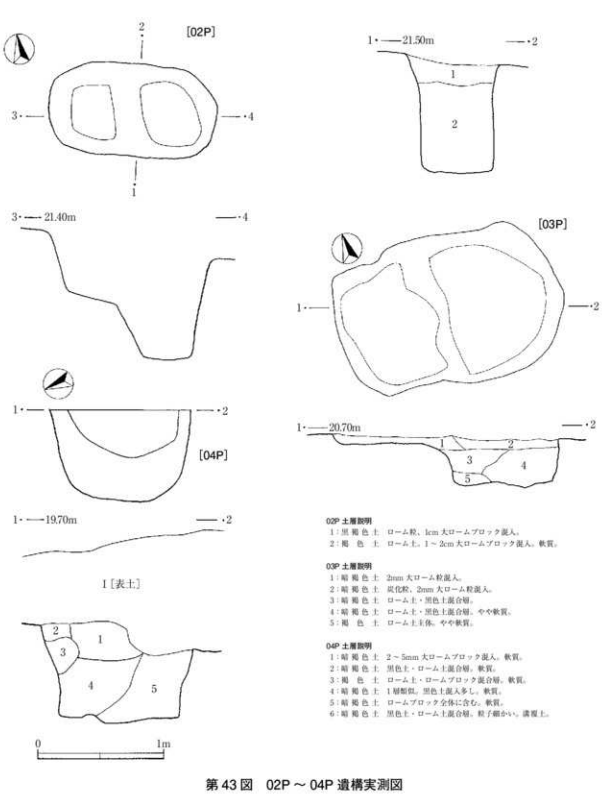
位置：調査区北側。**確認面**：ハードローム　**規模・平面形**：3口の土坑が合体する。西1.30m × 0.93m × 0.4mの方形。中央1.88m × 1.35m × 0.7mの長方形。東1.20m × 1.10m × 0.4mの方形。横全長3.50m　**方位**：N-80°-W　**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：2段に掘り込む。底面はハードロームを45cm掘り込む。平坦。覆土：4層に分層。下層の暗褐色土はやや軟質な層。人為堆積層か。**遺物**：銭貨1点。**備考**：近世墓坑。

34P（第9. 46図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.27m × 1.16m ×深さ0.53mの円形。**方位**：なし。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：16世紀後半の在地産土器等出土。混入遺物。**備考**：03Mを切る。近世墓坑。

35P（第9. 46図）

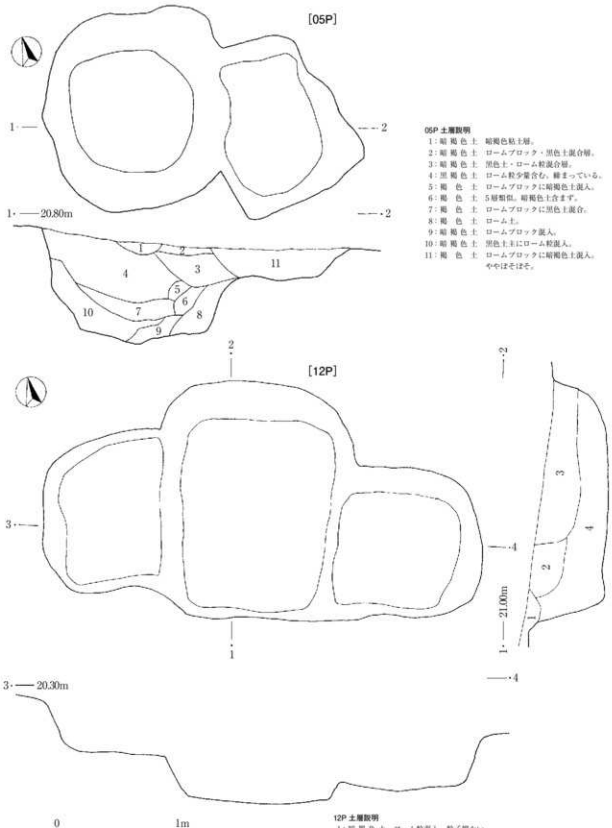
位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム下層　**規模・平面形**：0.72m × 0.7m ×深さ0.62mの円形。**方位**：なし。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。



第 43 図　02P ～ 04P 遺構実測図

36P（第 9. 46 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.11m × 0.84m ×深さ 0.51m の円形。**方位**：なし。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：黒褐色土～暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。



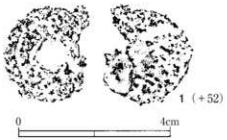
05P 土層説明

1：暗 褐 色 土　暗褐色粘土層。
2：暗 褐 色 土　ロームブロック・黒色土混合層。
3：暗 褐 色 土　黒色土・ローム粒混合層。
4：黒 褐 色 土　ローム粒少量含む。締まっている。
5：褐　色　土　ロームブロックに暗褐色土混入。
6：褐　色　土　5層類似。暗褐色土含まず。
7：褐　色　土　ロームブロックに黒色土混合。
8：褐　色　土　ローム土。
9：暗 褐 色 土　ロームブロック混入。
10：暗 褐 色 土　黒色土主にローム粒混入。
11：褐　色　土　ロームブロックに暗褐色土混入。
ややぼそぼそ。

12P 土層説明

1：暗 褐 色 土　ローム粒混入。粒子細かい。
2：暗 褐 色 土　黒色土・ローム土・1～2cm 大ロームブロック混合層。軟質。
3：暗 褐 色 土　2層類似。黒色土粒多い。軟質。
4：暗 褐 色 土　2層類似。ローム粒多い。軟質。

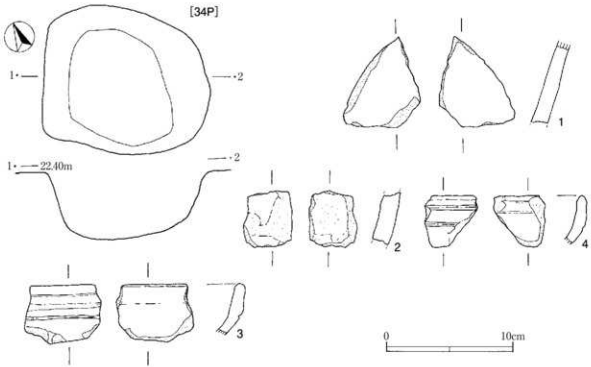
第 44 図　05P. 12P 遺構実測図



12P 遺物観察表

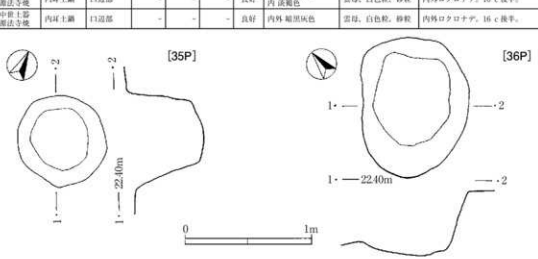
	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	調整・文様等
1	金属製品	銭貨	4/5 遺存	外縁 2.5	内区 0.6	重さ 1.8 g	文字「□□□寶」。

第 45 図　12P 出土遺物



34P 遺物観察表

	種別	器種	部位	計測値(cm) 器高	口径	底径	焼成	色調	胎土	調整・文様等
1	中世土器 源法寺焼	内耳土鍋	胴部片	-	-	-	良好	外 橙褐色 内 黒褐色	雲母、石英、多含、赤色粒混入	ロクロナデ。16 c 後半。　外面調整。
2	中世土器 源法寺焼	内耳土鍋	胴部片	-	-	-	良好	外 暗褐色 内 橙褐色	雲母、石英、多含。	内面調整。16 c 後半。
3	中世土器 源法寺焼	内耳土鍋	口辺部	-	-	-	良好	外 暗黒灰茶色 内 淡褐色	雲母、白色粒、砂粒	内外ロクロナデ。16 c 後半。
4	中世土器 源法寺焼	内耳土鍋	口辺部	-	-	-	良好	内外 暗黒灰色	雲母、白色粒、砂粒	内外ロクロナデ。16 c 後半。



第 46 図　34P ～ 36P 遺構実測図・出土遺物

37P（第 9. 47 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.33m × 1.25m ×深さ 0.33m の隅丸方形。**方位**：N-68° -W。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：03M を切る。38P に切られる。近世墓坑。

38P（第 9. 47 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：0.66m × 0.58m ×深さ 0.51m の円形。**方位**：なし。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：黒褐色土～暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：37P. 39P を切る。近世墓坑か。

39P（第 9. 48 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.02m × 0.76m ×深さ 0.47m の隅丸長方形。**方位**：N-46° -W。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：03M を切る。近世墓坑。

40P（第 9. 48 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.30m × 0.90m ×深さ 0.23m の楕円形。**方位**：N-24° -E。**壁**：やや緩やかに立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

41P（第 9. 48 図）

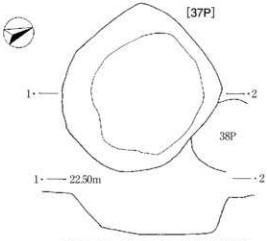
位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：0.80m × 0.70m ×深さ 0.50m の円形。**方位**：なし。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑か。

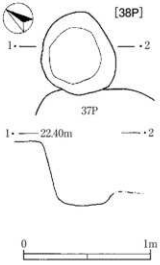
42P（第 9. 48 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：0.94m × 0.68m ×深さ 0.49m の楕円形。**方位**：N-22° -E。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑か。

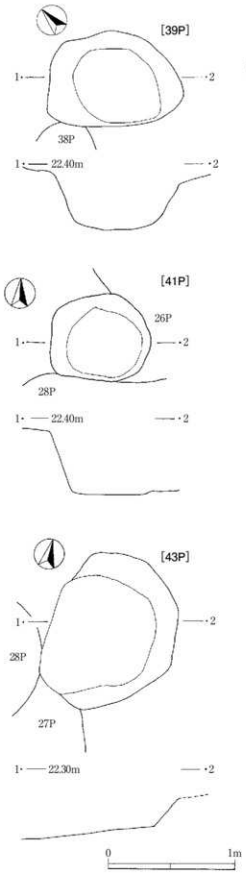
43P（第 9. 48 図）

位置：調査区中央。**確認面**：ソフトローム　**規模・平面形**：1.23m × 1.04m ×深さ 0.33m の隅丸長方形。**方位**：N-16° -W。**壁**：角度をもって立ち上がる。**底面**：ハードロームを掘り込む。平坦。覆土：暗褐色土でやや軟質な層。**遺物**：なし。**備考**：近世墓坑。

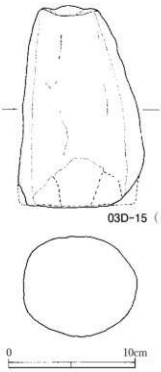




第 47 図　37P. 38P 遺構実測図



第 48 図　39P ～ 43P 遺構実測図



第 49 図　03D-15 遺物実測図

第6節　まとめ

縄文時代

今回の調査においては，遺構については早期後半の炉穴21基・ピット1基を検出した。台地縁辺部のみの成果であるため，西側未調査区に展開する可能性は高い。南対岸の佐倉市先崎西原遺跡では，野島式期の竪穴住居跡1軒・炉穴7基・土坑7基が検出されている。また北岸の印西市馬々台遺跡では，早期後半の条痕文系土器（野島式，茅山下層式）と共に，炉穴約30基が検出された。他にも台地先端部を中心に，土器・遺構の検出が見られる。印旛沼に地の利を得た結果といえよう。

遺物は遺構に伴う土器が主体で，条痕文のみを施文したものがその大半を占める。円形竹管文や押引文の個体がある程度見られ，擦痕文を施文した個体が少量出土する。このことから炉穴は，鵜ヶ島台式期後半から茅山下層式期の所産に想定される。野島式は遺構外出土の1点のみである。早期前半の撚糸文系土器が少量出土したことから，印旛沼の土地利用はさかのぼるのであろう。その他，石鏃・土製円盤・焼けた礫が出土している。

弥生時代

後期土器片が03D覆土中より7点出土している。当該期の竪穴住居跡を03Dが壊していると考えられる。遺物はここからの出土のみであり，遺構の展開は希薄と想定される。

奈良平安時代

当該期の竪穴建物跡3棟と21，22P覆土中から瓦塔片が出土した。竪穴建物跡は01Dが千葉産須恵器甕・高台付皿・大振りな坏の要素から，9世紀前半に比定できる。03Dは竪穴の形態や須恵器坏・蓋，土師器坏・甕の形態から8世紀前半に比定される。同様に02Dは遺物が小片で決定に欠くが，01Dに切られていることや03Dの竪穴の形態との相似性から，8世紀前半代が妥当といえる。瓦塔は平安時代の9世紀代と想定され，西側の未調査区に住居群が展開するものと考える。

中世

遺構は，南北の台地縁辺に，01M･06Mの横堀を造り，最南部に土塁を巡らした主郭を配置している。土塁には，04Mが郭内の防御用堀として掘られている。調査区中央及び北側の遺構群である01SK・01P・21～22P・03Mは土地利用上，平時での所産と想定したい。

遺物は，22Pから13世紀中頃～14世紀初頭の中国産青磁連弁文口折皿が出土している。また，15世紀代の瀬戸美濃焼平碗が同じく22Pから，46Pから瀬戸・美濃焼直縁大皿が出土している。戦国後期以前の地域拠点としての土地利用が想定される。

調査範囲外からは，五輪塔・宝篋印塔・板碑等中世の石碑が集積ないし祀られている。この内，板碑には年代が刻まれており，文正2年（1467），文明15年（1483）等と15世紀後半の葬祭儀式の一端を示している。また，近隣住民の方々は，「深山」・「小沢」・「立石」姓が多く，千葉氏系の出自を示していることから，臼井氏や臼井原氏との関連性が考慮される。

近世

調査区での成果として，墓坑と想定されるピット15基を検出した。これには，覆土が軟質で褐色土系の堆積が顕著であることやキセル・銭貨の出土から類推した。また，調査区北側の04P・05P・12Pの一群と調査区中央の34P～43Pの一群では形態が異なるため，時期差等が考慮されよう。

【参考文献】

吉橋新山遺跡関連

2007　財団法人千葉県教育振興財団「西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書」－八千代市西芝山遺跡－

2012　公益財団法人千葉県教育振興財団「西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書２」－八千代市西芝山南遺跡－

2013　公益財団法人千葉県教育振興財団「西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書３」－八千代市八王子台遺跡－

2014　公益財団法人千葉県教育振興財団「西八千代北部地区埋蔵文化財調査報告書４」
－八千代市東向遺跡・坪井向遺跡・川向遺跡・庚申山塚群・八王子台遺跡－

内野南遺跡関連

2018　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成29年度」

天神遺跡関連

（天神遺跡周辺の遺跡について）

2009　八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市　下高野新山遺跡」－埋蔵文化財調査報告書－

1999　八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成11年度」郷遺跡の項

2001～2005 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市上谷遺跡」第１分冊～第５分冊

2001・2003 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市梨谷遺跡」第１分冊・第２分冊

2004 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市向境遺跡」

2005 八千代市遺跡調査会「千葉県八千代市境堀遺跡」

2001 財団法人印旛郡市文化財センター「千葉県佐倉市先崎西原遺跡」－信澄寺霊園増設に伴う埋蔵文化財調査－

1978 千葉県教育庁文化課「千葉県埋蔵文化財発掘調査抄報」－昭和53年度－馬々台遺跡の項

2021 八千代市教育委員会「千葉県八千代市　米本城跡ｂ地点」－共同住宅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

2008　八千代市「八千代市の歴史　通史編　上」ｐ362～370　米本城跡の項

2008　八千代市「八千代市の歴史　通史編　上」ｐ387～388　保品竜害城跡の項

※米本辺田台遺跡は令和３年度市内遺跡発掘調査事業として実施。令和４年度に概要を刊行予定

2005 八千代市教育委員会「千葉県八千代市　市内遺跡発掘調査報告書　平成16年度」下宿東遺跡の項

2008　八千代市「八千代市の歴史　通史編　上」ｐ370～372 下宿東遺跡の項

2006 財団法人印旛郡市文化財センター「千葉県佐倉市先崎城跡」

2005 財団法人印旛郡市文化財センター「千葉県佐倉市井野安坂山遺跡　井野長割遺跡（第９次）　井野城跡
井野宮ノ台遺跡　井野外山遺跡」－佐倉市井野東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査（その４）－

（天神遺跡縄文時代）

2005　財団法人千葉県文化財センター「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書４」－八千代市間見穴遺跡（2）－

（天神遺跡中世）

2007　船橋市教育委員会「千葉県船橋市　東中山台遺跡群（36）」

2021　千葉市・千葉大学「千葉氏の領域における交通と流通」－水と陸でつながる人・モノの中世－
令和２年度千葉市・千葉大学公開市民講座　講演録

※中世の遺物については道上　文氏に，遺構については，東金市文化財審議会会長　遠山　成一氏に御教示を得ました。記して感謝いたします。

報 告 書 抄 録

ふ り が な	ちばけんやちよし こうきょうじぎょうかんれんいせきはっくつちょうさほうこくしょはち
書 名	千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ
副 書 名	吉橋新山遺跡ａ.ｂ地点　内野南遺跡ｊ地点　天神遺跡ａ地点
編 著 者 名	森　竜哉
編 集 機 関	八千代市教育委員会
所 在 地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL　047（483）1151代表
発 行 年 月 日	令和４年３月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
よしはしあらやまいせきあ 吉橋新山遺跡 ａ地点	よしはし 吉橋 2405番１	12221	130	35度 74分 52秒	140度 07分 45秒	20160614 ～ 20160620	56㎡ /500 ㎡	道路拡幅
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
よしはしあらやまいせきび 吉橋新山遺跡 ｂ地点	よしはし 吉橋 2400番１	12221	130	35度 74分 52秒	140度 07分 48秒	20190520 ～ 20190523	70㎡ /720 ㎡	道路拡幅
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
うのみなみいせきじ 内野南遺跡 ｊ地点	よしはし 吉橋 1075-10	12221	289	35度 73分 54秒	140度 07分 74秒	20190427 ～ 20190606	16㎡ /16㎡	公共下水道工事
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積㎡	調査原因
てんじんいせき 天神遺跡 ａ地点	しもたかの 下高野 150	12221	89	35度 75分 00秒	140度 14分 18秒	20200923 ～ 20210126	上層2100 ㎡	急傾斜地崩壊対策事業

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉橋新山遺跡ａ地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	なし	なし	
要 約	遺構・遺物の検出はなかった。				

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉橋新山遺跡ｂ地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	なし	なし	
要 約	遺構・遺物の検出はなかった。				

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
内野南遺跡ｊ地点	包蔵地 集落跡	縄文	なし	なし	
要 約	遺構・遺物の検出はなかった。				

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天神遺跡ａ地点	包蔵地	縄文 奈良・平安	縄文時代早期後半炉穴21基 奈良平安時代竪穴建物跡３棟 中世竪穴状遺構３基・地下式坑３基 土墓１ヵ所・溝６条等	縄文時代早期撚糸文系土器・条痕文系土器 奈良平安時代土師器・須恵器・瓦塔 中世中国産青磁・瀬戸・美濃焼陶器 常滑焼甕，擂鉢・在地産土製土鍋	
要 約	縄文時代早期後半の炉穴群の検出により，同時期の周辺地域を含めた土地利用について知見を得た。 中世の土墓を含む遺構の検出により，館跡の一部について知見を得た。				

吉橋新山遺跡 a 地点　2T 完掘状況

吉橋新山遺跡 a 地点　6T 完掘状況

吉橋新山遺跡 b 地点　6T 完掘状況

吉橋新山遺跡 b 地点　1T 完掘状況

内野南遺跡 j 地点　トレンチ完掘状況

内野南遺跡 j 地点　トレンチ完掘状況

天神遺跡 a 地点　遺構確認状況

天神遺跡 a 地点　14T 完掘状況

図版２　天神遺跡ａ地点遺構①

06P 全景

17 ～ 20P 全景

01D 全景

中央区全景

04M 全景

04M 全景

01DR.04M 全景

01DR 全景

01DR 全景

44P 全景

46P 全景

53P 全景

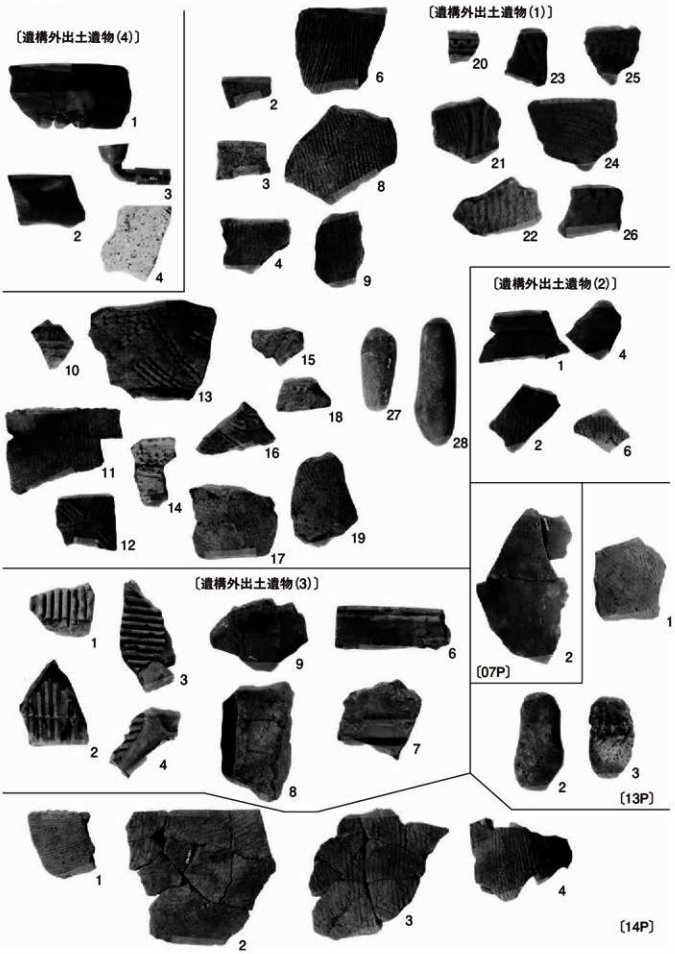
01SK 全景

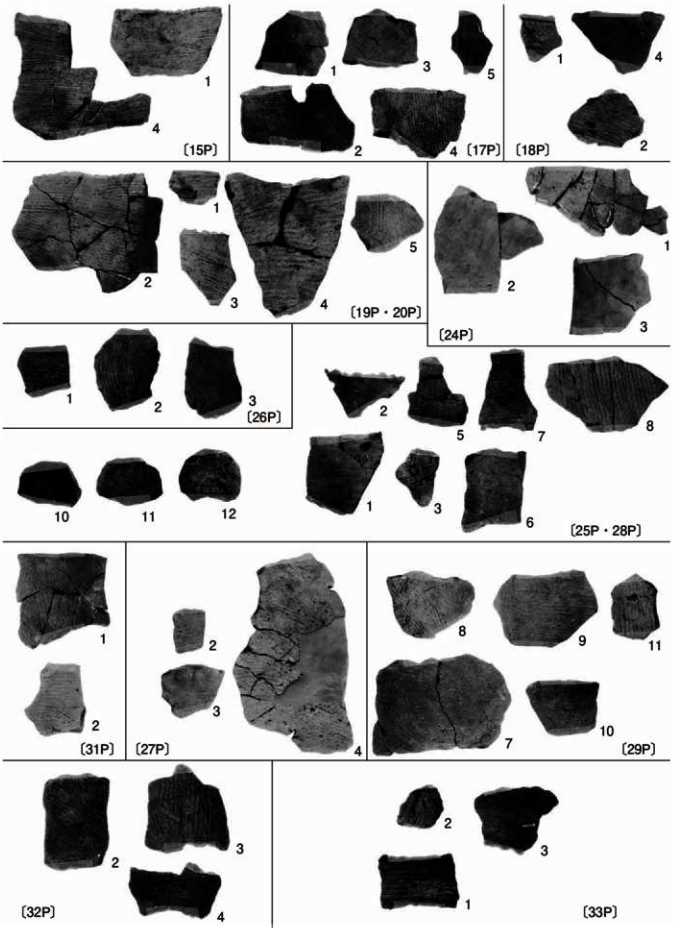
01P 全景

01M 全景

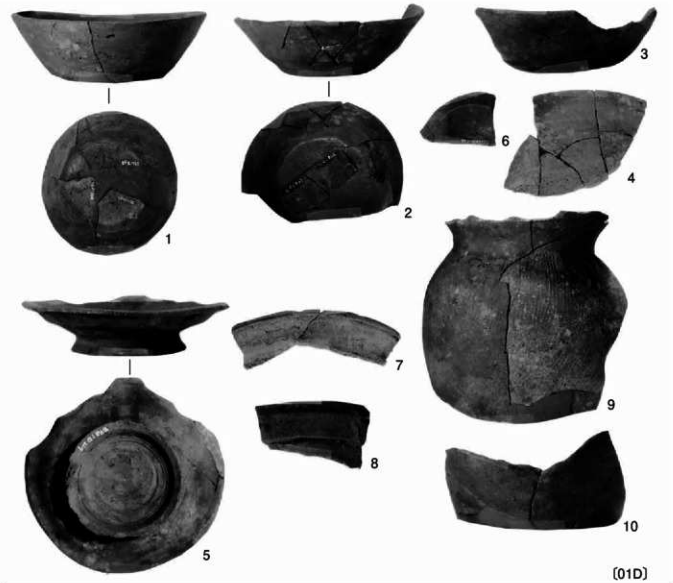
06M 全景

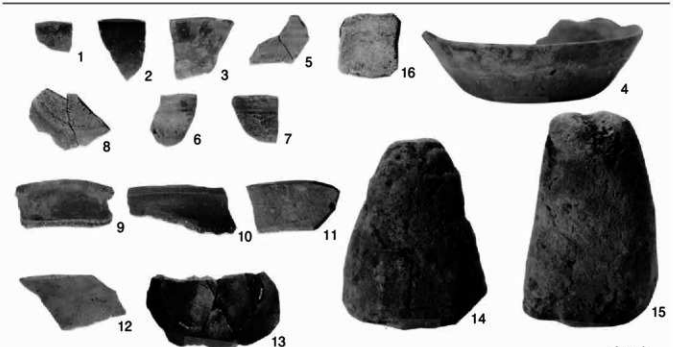
図版４　天神遺跡出土遺物①

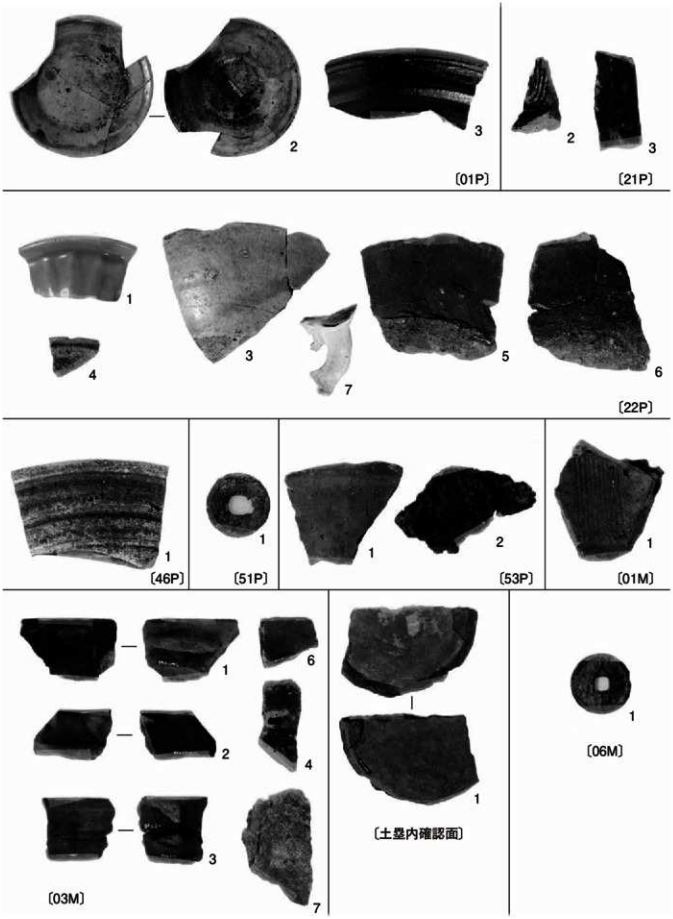



1
4
〔15P〕
1
3
5
2
4
〔17P〕
1
4
2
〔18P〕
1
2
3
4
5
〔19P・20P〕
1
2
3
〔24P〕
1
2
3
〔26P〕
2
5
7
8
1
3
6
〔25P・28P〕
10
11
12
1
2
〔31P〕
2
3
4
〔27P〕
8
9
11
7
10
〔29P〕
2
3
4
〔32P〕
2
3
1
〔33P〕

図版６　天神遺跡出土遺物③






1
2
3
〔01P〕
2
3
〔21P〕
1
4
3
7
5
6
〔22P〕
1
〔46P〕
1
〔51P〕
1
2
〔53P〕
1
〔01M〕
1
6
2
4
3
7
〔03M〕
1
〔土墓内確認面〕
1
〔06M〕

千葉県八千代市
公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅷ

発行日　令和４年３月30日
編　集　八千代市教育委員会　文化・スポーツ課
〒276-0045　八千代市大和田138-2
℡ 047-483-1151（代表）
発　行　八千代市教育委員会
印　刷　株式会社 山下印刷